



オリジナル取扱説明書

取り付け式コンパクトディスクハロー

CombiDisc 3000

苗床の作成用



SmartLearning



AMAZONE
AMAZONEN-WERKE H. DREYER SE & Co. KG
Am Amazonenwerk 9-13 D-49205 Hasbergen

Maschinen-Nr.

Fahrzeug-Ident-Nr.

Produkt

zul. technisches Maschinengewicht kg Modelljahr

機械の識別データをここに記入してください。識別データは銘板に記載されています。



目次

1 本取扱説明書について	1	4.8.2 サイドガイドプレート	32
1.1 使用している記号	1	4.8.3 ローラー	32
1.1.1 警告および信号文字	1	4.9 汎用調整ツール	34
1.1.2 その他の注記	1	4.10 道路走行用の照明と識別	34
1.1.3 操作指示	2	4.10.1 後方の照明と識別	34
1.1.4 列挙	3	4.10.2 前方の照明と識別	35
1.1.5 図中の位置番号	3	4.11 クイックカップリングシステム クイックリンク	35
1.2 関連文書	4		
1.3 ご意見をお待ちしております	4		
2 安全性と責任	5	5 技術データ	36
2.1 基本的な安全上の注意事項	5	5.1 寸法	36
2.1.1 取扱説明書の意味	5	5.2 許容総重量	36
2.1.2 安全な運転組織	5	5.3 整地用ツール	36
2.1.3 危険の認識と回避	10	5.4 接続カテゴリ	37
2.1.4 安全な作業と機械の安全な取り扱い	12	5.5 クイックカップリングシステム クイックリンク	37
2.1.5 安全なメンテナンスと変更	15	5.6 作業速度	37
2.2 安全ルーチン	20	5.7 トラクターの性能特性	37
3 使用目的	23	5.8 騒音発生データ	38
		5.9 走行可能な斜面勾配	38
		5.10 潤滑剤	38
4 製品の説明	24	6 機械の準備	39
4.1 機械の概要	24	6.1 必要なトラクター特性を計算	39
4.2 機械の機能	25	6.2 機械の連結	42
4.3 特別装備	25	6.2.1 3点式取付用フレームの準備	42
4.4 保護装置	26	6.2.2 3点式取付用フレームの連結	44
4.4.1 トラックマーカのロック	26	6.2.3 油圧ホースラインの連結	45
4.5 警告マーク	27	6.2.4 電圧供給を連結	46
4.5.1 警告マークの位置	27	6.3 機械の使用準備	47
4.5.2 警告マークの構成	27	6.3.1 作業深度の設定	47
4.5.3 警告マークの説明	28	6.3.2 サイドガイドプレートの使用準備	50
4.6 機械の銘板	30	6.3.3 トラックマーカの使用準備	51
4.7 スレッドパック	31	6.3.4 タイヤ跡消しの使用準備	53
4.8 整地用ツール	31	6.3.5 ローラーのスクレーパーを調整	55
4.8.1 中空ディスク	31	6.3.6 土壌ガイドブラケットの設定	56
		6.4 道路走行用に機械を準備	56

6.4.1	サイドガイドプレートを道路走行用に準備	56	11.2	関連文書	75
6.4.2	道路走行用にトラックマーカを準備	57	12	索引	76
6.5	許容積載重量を計算	57	12.1	用語集	76
			12.2	インデックス	77
7	機械を使用	58			
7.1	機械を使用	58			
7.2	機械を枕地で方向転換	58			
8	機械を置く	59			
8.1	タイヤ跡消しをパーキング位置にセット	59			
8.2	3点式取付用フレームを連結解除	60			
8.3	油圧ホースラインの連結解除	60			
8.4	電圧供給の連結解除	61			
9	機械の修理	62			
9.1	機械のメンテナンス	62			
9.1.1	メンテナンススケジュール	62			
9.1.2	上下リンクピンの点検	63			
9.1.3	油圧ホースラインの点検	63			
9.1.4	ディスクの交換	64			
9.1.5	中空ディスクキャリアの接続を点検	64			
9.1.6	タイヤ跡消しコイルタの点検	65			
9.1.7	ローラーの点検	66			
9.2	機械の潤滑	67			
9.2.1	潤滑ポイント概要	68			
9.3	故障を取り除く	69			
9.4	機械の清掃	70			
10	機械の積載	71			
10.1	機械の上昇	71			
10.2	機械をラッシング	72			
11	付録	74			
11.1	ねじの締め付けトルク	74			

本取扱説明書について

1

CMS-T-00000081-D.1

1.1 使用している記号

CMS-T-005676-C.1

1.1.1 警告および信号文字

CMS-T-00002415-A.1

警告は、三角形の安全記号と信号文字が付いた、垂直バーで示されています。信号文字の "危険" と "警告"、"注意" は、差し迫った危険の度合いを示し、次の意味があります：



危険

- ▶ 身体の一部を失うような重傷や死亡をもたらす可能性がある、大きな差し迫った危険を示します。



警告

- ▶ 重傷や死亡をもたらす可能性がある、中程度の危険を示します。



注意

- ▶ 軽度から中程度の負傷をもたらす可能性がある、低い危険を示します。

1.1.2 その他の注記

CMS-T-00002416-A.1



重要

- ▶ 機械損傷のリスクを示します。



環境に関する注記

- ▶ 環境汚染のリスクを示します。



注記

使用上のヒントや最適な使用のための注記を示します。

1.1.3 操作指示

CMS-T-00000473-B.1

番号が付いた操作指示

CMS-T-005217-B.1

特定の順番で実行する必要がある操作は、番号付きの操作指示として記載されています。所定の操作順を守らなければなりません。

例：

1. 操作指示 1
2. 操作指示 2

1.1.3.1 操作指示と結果

CMS-T-005678-B.1

操作指示の結果は、矢印で示されます。

例：

1. 操作指示 1

➡ 操作指示 1 の結果

2. 操作指示 2

1.1.3.2 別の操作指示

CMS-T-00000110-B.1

別の操作指示の前には、「あるい/は」という言葉が付きます。

例：

1. 操作指示 1

または

別の操作指示

2. 操作指示 2

操作が 1 つだけである操作指示

CMS-T-005211-C.1

操作が 1 つだけの操作指示には番号ではなく、矢印がついています。

例：

▶ 操作指示

順序なしの操作指示

CMS-T-005214-C.1

特定の順番に従う必要のない操作指示は、矢印を付けて箇条書きされています。

例：

▶ 操作指示

▶ 操作指示

▶ 操作指示

1.1.4 列挙

CMS-T-000024-A.1

順番が重要ではない列挙は、黒丸を付けて箇条書きされています。

例：

● ポイント 1

● ポイント 2

1.1.5 図中の位置番号

CMS-T-000023-B.1

文中に挿入された番号、例えば **1** は、横の図の位置番号を示します。

1.2 関連文書

CMS-T-00000616-B.1

他の該当する書類のリストが、付録にあります。

1.3 ご意見をお待ちしております

CMS-T-0000059-C.1

読者の皆様、弊社では定期的に取扱説明書をアップデートしております。よりユーザー本位の取扱説明書に改良していくため、皆様からのご意見は大変参考になります。皆様のご意見をお手紙やファックス、電子メールでお寄せください。

AMAZONEN-WERKE H. Dreyer SE & Co. KG
Technische Redaktion
Postfach 51
D-49202 Hasbergen

Fax: +49 (0) 5405 501-234
E-Mail: td@amazone.de

CMS-I-00000638

安全性と責任

2

CMS-T-00002298-J.1

2.1 基本的な安全上の注意事項

CMS-T-00002301-J.1

2.1.1 取扱説明書の意味

CMS-T-00006180-A.1

取扱説明書の遵守

取扱説明書は重要な文書であり、機械の一部です。これは使用者のためのもので、安全関連の情報が含まれています。安全なのは、取扱説明書に記載されている手順だけです。取扱説明書を遵守しないと、重傷や死亡に至る可能性があります。

- ▶ 機械を初めて使用する前に、安全に関する章を全て読んで、内容を遵守してください。
- ▶ さらに、作業前に取扱説明書の対応する箇所を読んで、内容を遵守してください。
- ▶ 取扱説明書は、保管してください。
- ▶ 取扱説明書は、閲覧できる状態にしておいてください。
- ▶ 取扱説明書は、次のユーザーに引き渡してください。

2.1.2 安全な運転組織

CMS-T-00002302-C.1

2.1.2.1 作業員の資格

CMS-T-00002306-A.1

2.1.2.1.1 機械で作業する全作業員の要件

CMS-T-00002310-A.1

機械を不適切に使用する場合、負傷事故や死亡事故の恐れがあります。不適切な使用による事故を防ぐた

め、機械で作業する各作業者は、次の最小要件を満たす必要があります：

- 作業員は身体的、精神的に機械を制御できる状態であること。
- 作業員は本取扱説明書の枠内における機械での作業を確実に実行できること。
- 作業員は、その作業の枠内で機械の機能を理解し、作業の危険を見分け、回避できること。
- 作業員は本取扱説明書の内容を理解しており、本取扱説明書によって伝えられる情報を実行に移せること。
- 作業員は車両の安全な運転に精通していること。
- 道路走行のために、作業員は交通関連規則を知っており、定められた走行許可を保有していること。

2.1.2.1.2 資格レベル

CMS-T-00002311-A.1

機械を用いた作業を行うには、次の資格レベルが必要です：

- 農業経営者
- 農作業補助員

本取扱説明書で説明されている作業は、原則として資格レベル「農作業補助員」の作業員が実行できます。

2.1.2.1.3 農業経営者

CMS-T-00002312-A.1

農業経営者は、圃場耕作用に農業機械を使用します。農業経営者は、特定の目的のために農業機械の使用について決断を下します。

原則として農業経営者は、農業機械を使用する作業に精通しており、必要に応じて農業機械の利用について農作業補助員を指導します。農業経営者は、農業機械の個々の簡単な修理とメンテナンス作業を自ら行うことができます。

例えば以下の人が農業経営者に該当します：

- 大学を卒業しているか、専門学校での訓練を終えている農業経営者
- 経験を積んだ農業経営者（相続した農場や豊富な経験があるなど）
- 農業経営者の依頼を受けて働く請負業者

作業の例：

- 農作業補助員に対する安全指導

2.1.2.1.4 農作業補助員

CMS-T-00002313-A.1

農作業補助員は、農業経営者の依頼により農業機械を使用します。農作業補助員は、農業機械の利用について農業経営者から指導を受け、農業経営者の作業契約に従って自ら働きます。

農作業補助員には、例えば以下の人が含まれます：

- 季節労働者と補助作業員
- 職業訓練中である見習いの農業経営者
- 農業経営者の従業員（トラクターの運転手など）
- 農業経営者の家族

作業の例：

- 機械の運転
- 作業深度の設定

2.1.2.2 操作場所と同乗者

CMS-T-00002307-B.1

同乗者

同乗者は、機械の動作によって落下し、ひかれ、重傷を負ったり死亡したりする恐れがあります。跳ね上がる物体が同乗者に当たり、同乗者が負傷する恐れがあります。

- ▶ 機械の上に誰も同乗させないでください。
- ▶ 移動中の機械に誰も乗ることがないようにしてください。

2.1.2.3 子供に対する危険

CMS-T-00002308-A.1

子供に対する危険

子供は危険を判断できず、予測がつかない行動をとります。これにより子供は特に危険にさらされます。

- ▶ 子供を近づけないでください。
- ▶ アプローチするか、機械動作を作動させる場合、危険エリアに子供がいなかったことを必ず確認してください。

2.1.2.4 運転安全性

CMS-T-00002309-C.1

2.1.2.4.1 技術的に問題のない状態

CMS-T-00002314-C.1

適切に準備された機械のみを使用

本取扱説明書に基づいて適切に準備されていなければ、機械の運転安全性は保証されません。これにより事故が発生し、重傷事故や死亡事故が生じる恐れがあります。

- ▶ 本取扱説明書に従って機械の準備をしてください。

機械の破損による危険

機械の破損により、機械の運転安全性が損なわれ、事故が生じる恐れがあります。これにより重傷事故や死亡事故の恐れがあります。

- ▶ 破損が疑われたり、確認された場合は、トラクターと機械を固定してください。
- ▶ 安全性に影響を及ぼす恐れのある破損は、直ちに排除してください。
- ▶ 本取扱説明書に従って破損を取り除きます。
- ▶ 本取扱説明書に従って自ら取り除くことができない損傷は、資格を有する専門工場に依頼して排除してください。

技術限界値を遵守

機械の技術限界値を遵守しないと、事故が発生し、人が重傷を負ったり死亡する恐れがあります。さらに機械が破損する恐れがあります。技術限界値は技術データに記載されています。

- ▶ 技術限界値を遵守してください。

2.1.2.4.2 個人用保護具

CMS-T-00002316-B.1

個人用保護具

個人用保護具の着用は、安全のための重要な要素です。個人用保護具が欠落していたり、不適切である場合には、健康を損なう危険や負傷する危険が高まります。例えば個人用保護具には次のものがあります：作業用手袋、作業靴、保護服、呼吸保護具、防音保護具、フェイスガードおよび保護めがね

- ▶ 割り当てられる作業ごとに個人用保護具を定め、保護具を準備してください。
- ▶ 正常な状態であり、有効な保護を提供する個人用保護具だけを使用してください。
- ▶ サイズなど、個人用保護具を該当者に適合させてください。
- ▶ 作業物質、種子、肥料、植物保護剤および洗剤についてのメーカーの注記を遵守してください。

適切な服を着用

ルーズな服を着用していると、回転するパーツに挟まれたり巻き込まれる危険や、突き出る部分に引っかかる危険が高まります。これにより重傷事故や死亡事故の恐れがあります。

- ▶ 体にフィットしない、ルーズな服は着用しないでください。
- ▶ リング、チェーンなどのアクセサリは絶対に着用しないでください。
- ▶ 長髪の方は、ヘアネットを着用してください。

2.1.2.4.3 警告マーク

CMS-T-00002317-B.1

警告マークは内容を読み取れる状態に保ちます

機械にある警告マークは、危険個所の危険を警告しており、機械の安全装備の重要な構成要素です。警告マークが欠けている場合、重傷事故や死亡事故のリスクが高まります。

- ▶ 汚れがある警告マークは清掃してください。
- ▶ 破損して、識別できなくなった警告マークはすぐに新しいものに交換してください。
- ▶ 定められた警告マークを交換パーツに取り付けてください。

2.1.3 危険の認識と回避

CMS-T-00002303-D.1

2.1.3.1 機械の危険源

CMS-T-00002318-D.1

圧力がかかった液体

高圧下にある漏れ出た油圧油が皮膚から体内に入り、重傷をもたらすことがあります。ピンの頭サイズの穴でも、重傷事故を起こす恐れがあります。

- ▶ 油圧ホースラインを連結解除したり、損傷がないか点検する前に、油圧システムの圧力を抜きます。
- ▶ 圧力システムが破損していると思われる場合、資格を有する専門工場に依頼して圧力システムを点検してください。
- ▶ 絶対に漏れを素手で探さないでください。
- ▶ 身体と顔を、漏れ発生箇所に近づけないでください。
- ▶ 液体が体内に入り込んだ場合には、ただちに医師の診察を受けてください。

2.1.3.2 危険エリア

CMS-T-00002319-C.1

機械の危険エリア

危険エリアには、次の主な危険があります：

機械とその作業ツールは、作業に応じて動きます。

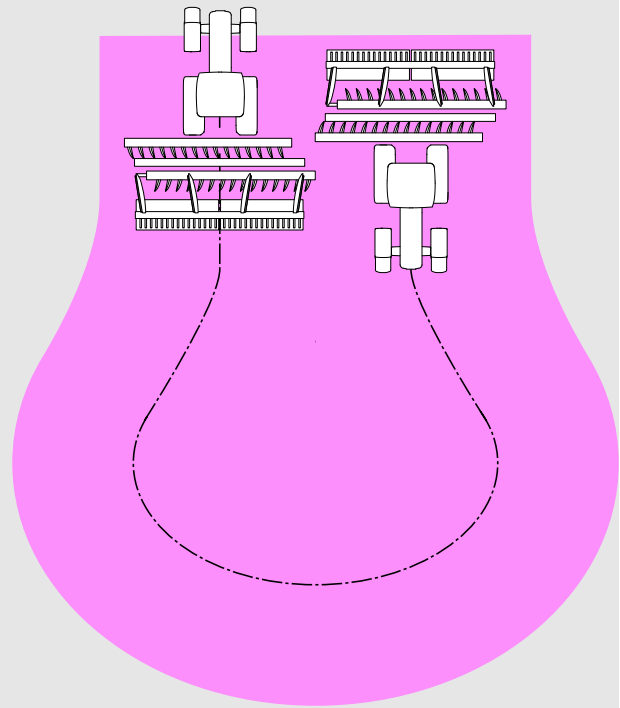
油圧で上昇させた機械パーツは、不意にゆっくり下降する恐れがあります。

トラクターと機械が、意図せずに動き出す可能性があります。

材料や異物が、機械から飛び出たり投げ出される可能性があります。

危険エリアに注意を払わない場合、重傷事故や死亡事故の恐れがあります。

- ▶ 現場にいる人に、機械の危険エリアから離れるように指示してください。
- ▶ 危険エリアに立ち入る人がいる場合には、エンジンとドライブをすぐにオフにしてください。
- ▶ 機械の危険エリアで作業する前に、トラクターと機械を固定してください。これは、一時的な点検作業をする場合にも当てはまります。



CMS-I-001131

2.1.4 安全な作業と機械の安全な取り扱い

CMS-T-00002304-G.1

2.1.4.1 機械の連結

CMS-T-00002320-C.1

機械とトラクターを連結

機械をトラクターと正しく連結しない場合、重傷事故が発生する恐れがあります。

トラクターと機械の間の連結点には、挫傷や切断の危険があります。

- ▶ 機械をトラクターに連結するか、トラクターから連結解除する場合、十分に注意してください。
- ▶ 機械の連結と輸送には、必ず適切なトラクターを使用してください。
- ▶ 機械をトラクターの3点式パワーリフトに連結する場合、トラクターと機械の接続カテゴリーが一致していることを確認してください。
- ▶ 機械は規則に従ってトラクターに連結します。

2.1.4.2 走行安全性

CMS-T-00002321-D.1

道路や圃場での走行時の危険

トラクターに取り付けられた機械やトラクターで牽引されている機械、フロントバラスト、リアバラストは、トラクターの走行挙動と操舵力および制動力に影響を及ぼします。走行特性は、運転状態、充填または積載状態、および地面によっても異なります。ドライバーが走行特性の変化を考慮しない場合、事故が生じる場合があります。

- ▶ **トラクターの操舵力と制動力が常に十分に発揮されるようにしてください。**
- ▶ **トラクターは、トラクターと取り付けた機械の指定されている制動減速度を守れなければなりません。**
走行開始前に、ブレーキが正しく作動するか確認してください。
- ▶ **十分な操舵力を確保するためには、常にトラクターの自重の 20 % 以上が、トラクター前輪軸にかかっている必要があります。**
必要に応じてフロントバラストを使用してください。
- ▶ **フロントバラストとリアバラストは、必ず所定の固定箇所に、規則通りに固定してください。**
- ▶ **取り付けられたり牽引された機械の積載荷重を計算して、これを遵守してください。**
- ▶ **トラクターの許容軸荷重および許容支持荷重を遵守してください。**
- ▶ **牽引装置と牽引バーの許容支持荷重を遵守してください。**
- ▶ **機械を取り付けたり牽引しているトラクターは、常に完全に制御できる状態で運転してください。そのためには、あなた個人の能力、路面・交通・視界・天候の諸条件、さらにはトラクターの走行特性および取り付けた機械の影響を考慮に入れてください。**

道路走行中に機械が横方向に無制御に動くことによる、事故の危険

- ▶ **道路を走行する際には、トラクターの下側リンクをロックしてください。**

道路走行用に機械を準備

道路走行用に機械を正しく準備しない場合、道路交通で重大な事故が生じる恐れがあります。

- ▶ 道路走行用の照明と識別が機能するか点検してください。
- ▶ 機械から目立つ汚れを取り除いてください。
- ▶ 「道路走行用に機械を準備」の章の指示に従ってください。

機械を置く

置かれた機械は倒れる恐れがあります。挫傷事故や死亡事故の恐れがあります。

- ▶ 機械は、必ず十分な支持力を持つ平坦な場所に置いてください。
- ▶ 設定作業や修理作業を行う前に、機械が安定していることを確認してください。疑わしい場合は、機械を支えてください。
- ▶ "機械を置く"の章の指示に従ってください。

監視されずに置かれた状態

不十分に固定され、監視されない状態で置かれているトラクターと、連結された機械は、現場の人や遊んでいる子供にとって危険です。

- ▶ 機械から離れる前に、トラクターと機械を停止してください。
- ▶ トラクターと機械を固定してください。

2.1.5 安全なメンテナンスと変更

CMS-T-00002305-D.1

2.1.5.1 機械に対する変更

CMS-T-00002322-B.1

設計変更は権限を有する場合のみ可能

設計変更や拡張により、機械の機能や運転安全性が損なわれる恐れがあります。これにより重傷事故や死亡事故の恐れがあります。

- ▶ 設計変更や拡張は、必ず資格を有する専門工場で実施してください。
- ▶ 国内および国際規制に準拠して型式承認が有効であり続けるようにするために、専門工場が AMAZONE 承認の改装パーツと交換パーツ、特別装備のみを使用していることを確認してください。

2.1.5.2 機械での作業

CMS-T-00002323-C.1

機械での作業開始前に機械を必ず停止

機械が停止していない場合、パーツが不意に動くか、機械が動く恐れがあります。これにより重傷事故や死亡事故の恐れがあります。

- ▶ 機械に対するあらゆる作業の前に、機械を停止し、機械を固定します。
- ▶ **機械を停止するために、次の作業を行ってください**
- ▶ 必要に応じて、機械が動き出さないように輪止めで固定します。
- ▶ 持ち上げられている物を地面に下ろします。
- ▶ 油圧ホースラインの圧力を抜いてください。
- ▶ **持ち上げられている物に対して、またはその下で作業を行わなければならない場合、**
物を下げるか、油圧式または機械式のロック装置で物を固定してください。
- ▶ ドライブをすべてオフにしてください。
- ▶ パーキングブレーキをかけてください。
- ▶ とりわけ斜面では、機械が動き出さないように、さらに輪止めで固定します。
- ▶ イグニッションキーを抜き取って、携帯してください。
- ▶ バッテリー切断スイッチのキーを抜き取ります。
- ▶ 後置されたパーツが停止し、高温のパーツが冷めるまで待ちます。

修理作業

とりわけ安全に関連するコンポーネントでの、不適切な修理作業は、運転安全性を損ないます。これにより事故が発生し、重傷事故や死亡事故が生じる恐れがあります。安全に関連するコンポーネントには、油圧コンポーネントや電気コンポーネント、フレーム、バネ、牽引連結器、車軸およびアクスルサスペンション、可燃物質のタンクおよびラインなどが含まれます。

- ▶ 機械を設定、修理、あるいは清掃する前に、機械を固定してください。
- ▶ 本取扱説明書に従って、機械を保守してください。
- ▶ 本取扱説明書で説明されている作業だけを実行してください。
- ▶ 本取扱説明書で説明されていない修理作業は、必ず資格を有する専門工場に依頼してください。
- ▶ 安全に関連するコンポーネントの修理作業は、必ず資格を有する専門工場に依頼してください。
- ▶ フレームやシャシー、機械の接続装置に対して、溶接や穿孔、鋸による切断、研削、分離は絶対に行わないでください。
- ▶ 安全に関連するコンポーネントは、決して加工しないでください。
- ▶ 既存の穴の上に穿孔しないでください。
- ▶ 定められたメンテナンス間隔ですべてのメンテナンス作業を実行してください。

持ち上げられた機械パーツ

持ち上げられた機械パーツは、意図せずに下降して、人が押し潰されたり死亡する恐れがあります。

- ▶ 持ち上げられた機械パーツの下に、決して留まらないでください。
- ▶ 上昇させた機械パーツに対して、あるいはその下で作業を実行しなければならない場合、機械パーツを下げるか、上昇させた機械パーツを機械的な支持装置または油圧式のロック装置で固定してください。

溶接作業による危険

とりわけ安全に関連するコンポーネントやその近くでの、不適切な溶接作業により、機械の運転安全性が損なわれる恐れがあります。これにより事故が発生し、重傷事故や死亡事故が生じる恐れがあります。安全に関連するコンポーネントには、油圧コンポーネントおよび電気コンポーネント、フレーム、バネ、3点式取付用フレームや牽引バー、ヒッチブロック、牽引連結器、ドローレールといったトラクターへの接続装置、そして車軸およびアクスルサスペンション、可燃物質のタンクおよびラインなどが含まれます。

- ▶ 安全に関連するコンポーネントの溶接作業は、適切な許可を与えられた作業員がいる、資格を有する専門工場にのみ依頼してください。
- ▶ すべての他のコンポーネントについては、必ず資格を有する作業員に溶接を実施させてください。
- ▶ あるコンポーネントで溶接できるか疑わしい場合は、資格を有する専門工場で確認してください。
- ▶ 機械で溶接を行う前に、機械をトラクターから連結解除してください。

2.1.5.3 作業物質

CMS-T-00002324-C.1

不適切な作業物質

AMAZONE の要件に適合しない作業物質（材料や燃料など）により、機械損傷や事故が生じる恐れがあります。

- ▶ 技術データの要件に適合する作業物質を必ず使用してください。

2.1.5.4 特別装備と交換パーツ

CMS-T-00002325-B.1

特別装備と付属品、交換パーツ

AMAZONE の要件に適合しない特別装備や付属品、交換パーツにより、機械の運転安全性が損なわれ、事故が発生する恐れがあります。

- ▶ 純正パーツまたは AMAZONE の要件に適合するパーツだけを使用してください。
- ▶ 特別装備や付属品、交換パーツに関して質問があれば、販売店か AMAZONE にお問い合わせください。

2.2 安全ルーチン

CMS-T-00002300-C.1

トラクターと機械を固定

トラクターと機械が不意に作動して走り出すことがないように固定されていない場合、トラクターと機械が制御されずに動き出し、人をひき、押しつぶし、衝突して死亡させる恐れがあります。

- ▶ 上昇した機械または上昇した機械パーツを降下させます。
- ▶ 操作装置を操作して、油圧ホースラインの圧力を抜きます。
- ▶ **上昇させた機械の下、またはコンポーネントの下に立ち入る必要がある場合、**上昇させた機械とコンポーネントが降下しないように、機械的な安全支持装置または油圧式の遮断装置で固定してください。
- ▶ トラクターを停めます。
- ▶ トラクターのパーキングブレーキを引きます。
- ▶ イグニッションキーを抜き取ります。

機械を固定

連結解除後、機械は固定しなければなりません。機械と機械パーツを固定しない場合、挫傷事故や切断事故の危険があります。

- ▶ 機械は、必ず十分な支持力を持つ平坦な場所に置いてください。
- ▶ **油圧ホースラインを無圧にして、トラクターから切り離す前に、**機械を作業位置にします。
- ▶ エッジが鋭い機械パーツや突き出ている機械パーツに直接人が触れることがないように保護してください。

保護装置は正しく機能する状態に保ってください

保護装置が欠落していたり、破損していたり、誤って取り付けられていたり、取り外されていると、機械パーツによって人が重傷を負ったり死亡する恐れがあります。

- ▶ 少なくとも毎日 1 回は、機械に損傷がないか、適切に取り付けられているか、保護装置が機能するか点検してください。
- ▶ *保護装置が正しく取り付けられ、機能しているか疑わしい場合は、資格を有する専門工場に依頼して保護装置を点検させてください。*
- ▶ 機械で作業をする前には、保護装置が適切に取り付けられ、正しく機能することを必ず確認してください。
- ▶ 破損した保護装置は新品に交換します。

乗車と降車

乗車と降車時の不注意な挙動により、はしごから人が落下する恐れがあります。定められたはしご以外で機械に乗る人は、滑り落ち、落下し、重傷を負う恐れがあります。

- ▶ 所定のはしごだけを使用
- ▶ **汚れや作業物質により、足元の安全性や安定性が損なわれる恐れがあります。**
踏み板と床面は常に清潔かつ正常な状態に保ち、足元の安全性と安定性が保証されるようにしてください。
- ▶ 機械が動いている場合には、機械の上に乗らないでください。
- ▶ 機械の方向を向いて昇降してください。
- ▶ 昇降時には 3 点式の接触法で段と手すりを使用してください。つまり、両手と片足、または両足と片手が同時に機械に接していなければなりません。
- ▶ 昇降時には、操作エレメントを絶対に掴まないでください。操作エレメントを間違えて操作すると、機能が意図せず作動し、危険が生じる恐れがあります。
- ▶ 降車時には機械から絶対に飛び降りないでください。

使用目的

3

CMS-T-00001708-B.1

- 本機械は、農地として用いられている土地の整地作業のために、農作業の規則に従って専門的に使用することのみを目的に製造されています。
- 本機械は、技術要件を満たすトラクターの3点式パワーリフトに取り付けるための農作業用機械です。
- 本機械は、苗床の作成、または軽い土壌から中程度の土壌でトップマウント式シードドリルを使用するためのキャリア機械に適しており、これを想定しています。
- 整地機械は、取扱説明書に記載されているローラーのみを使用できます。
- 公道を走行する場合、機械は有効な道路交通規則の定めに応じて、技術要件を満たすトラクターの後部に取り付け、運ぶことができます。
- 要件を満たす作業員だけが、機械を使用および修理できます。作業員についての要件は、“作業員の資格”の章に記載されています。
- 本取扱説明書は機械の構成要素です。この機械は、本取扱説明書に準拠した使用のみを目的に設計されています。本取扱説明書で説明されていない機械の用途により、重傷事故や死亡事故、および機械の破損や物損事故が生じる恐れがあります。
- ユーザーおよび所有者は、該当する事故防止規定ならびに一般的に知られている安全技術上、労働衛生上、さらに道路交通に関する法律を遵守しなければなりません。
- 特殊な事情における適切な使用についての詳細は、AMAZONEにお尋ねください。
- 使用目的としてあげられたものとは異なる他の使用は、不適切な使用と見なされます。不適切な使用によって生じた損傷については、メーカーの責任はなく、管理責任者だけの責任になります。

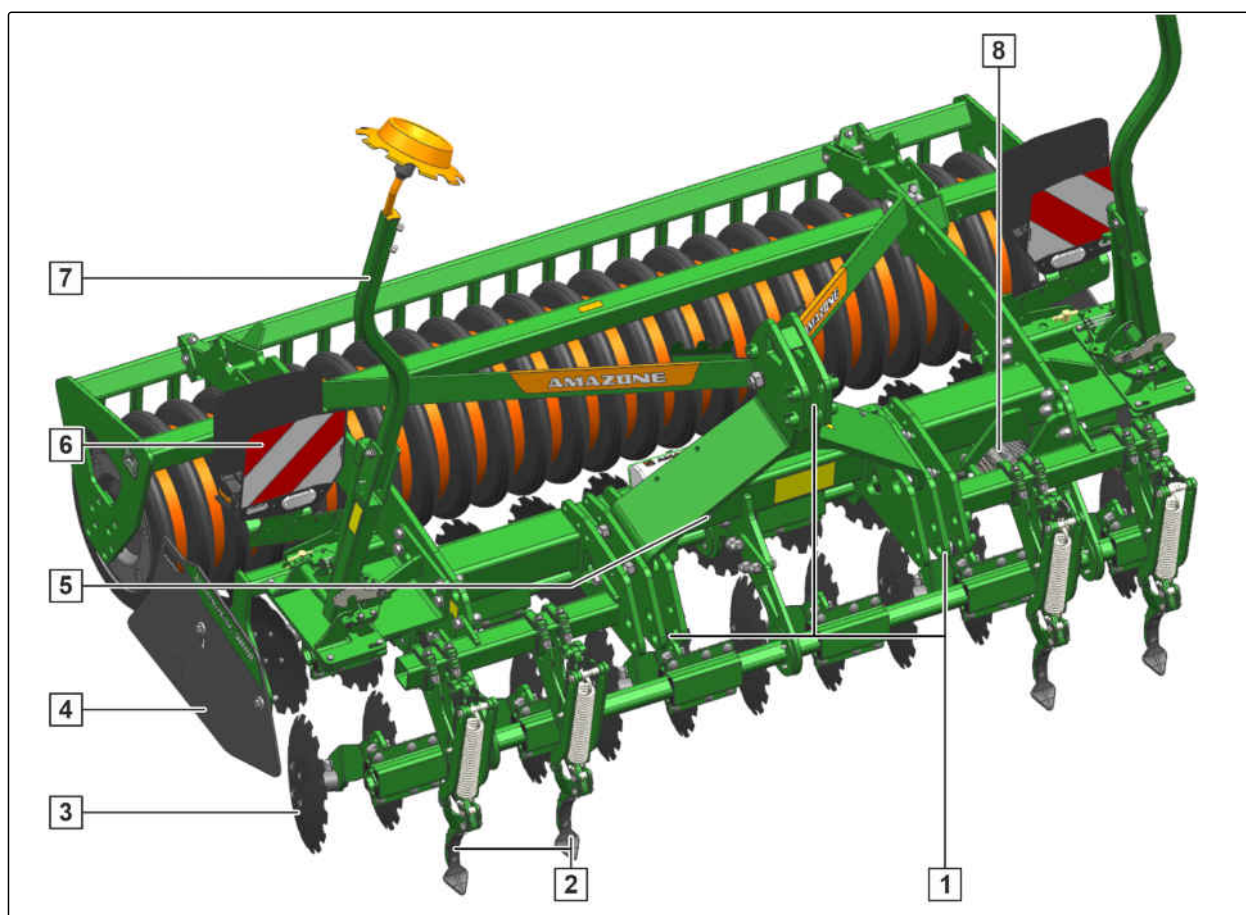
製品の説明

4

CMS-T-00001166-E.1

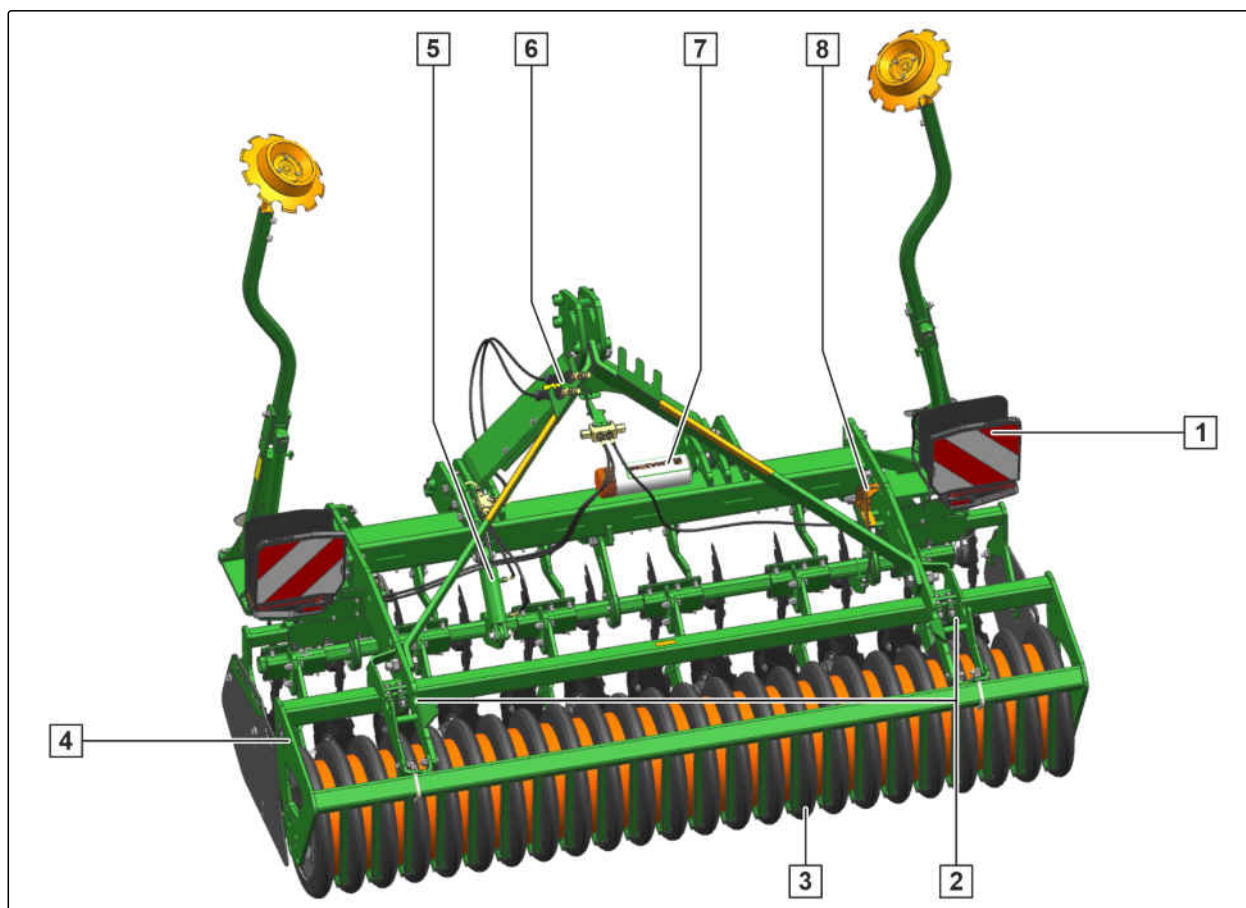
4.1 機械の概要

CMS-T-00001148-D.1



CMS-I-00000932

- | | |
|---------------------|---------------------------------|
| 1 3点式取付用フレーム | 5 機械の銘板 |
| 2 タイヤ跡消し | 6 道路走行用の照明と識別 |
| 3 ディスクアレイ | 7 トラックマーカ |
| 4 サイドガイドプレート | 8 機械的な作業深度調節、装備によって異なります |



CMS-I-00003754

- | | |
|--------------------------|------------------------------|
| 1 道路走行用の照明と識別 | 5 油圧式の作業深度調節、装備によって異なります |
| 2 クイックカップリングシステム クイックリンク | 6 ホースホルダ |
| 3 ローラースクレーパー | 7 スレッドパック |
| 4 異なる仕様の後置されたローラー | 8 油圧式の作業深度調節の目盛り、装備によって異なります |

4.2 機械の機能

CMS-T-00005181-A.1

ディスクアレイは地面を掘り返します。ディスクの回転数が高いため、土壌がよく混合され、土塊が確実に砕かれます。後置ローラーは、深さを制御して、土壌を鎮圧し、コンビネーションシーダーとしてトップマウント式シードドリルの重量を支えます。

4.3 特別装備

CMS-T-00005182-A.1

- 3 点式取付用フレームの延長部
- 油圧で設定可能な作業深度
- トラックマーカ

- タイヤ跡消し
- 道路走行用の照明と識別
- 様々な仕様の後置ローラー
- シードドリルのアタッチメントパーツ

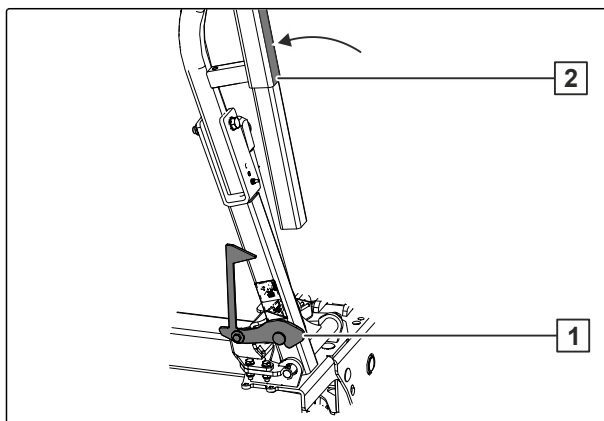
4.4 保護装置

CMS-T-00001493-B.1

4.4.1 トラックマーカのロック

CMS-T-00001600-B.1

機械の輸送時には、両側のトラックマーカは上昇しています。各トラックマーカはロック **1** で固定されています。



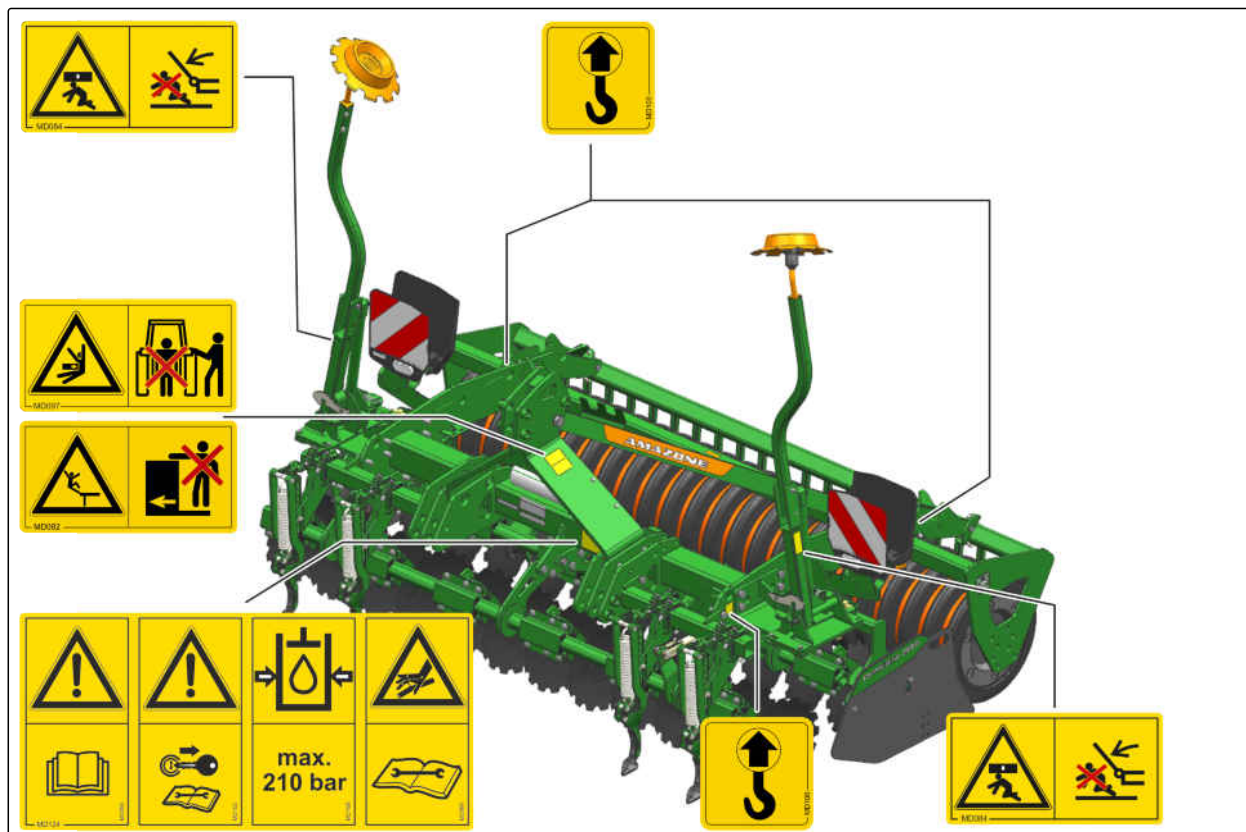
CMS-I-00000956

4.5 警告マーク

CMS-T-00001494-D.1

4.5.1 警告マークの位置

CMS-T-00001495-B.1



CMS-I-00000963

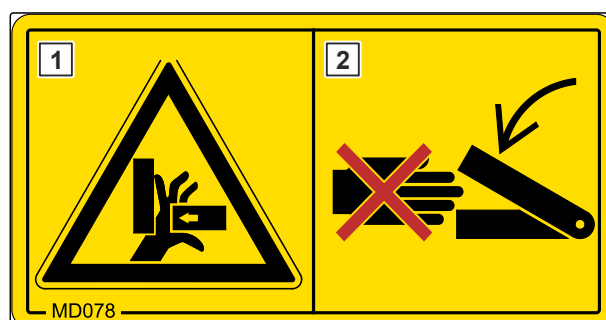
4.5.2 警告マークの構成

CMS-T-000141-D.1

警告マークは、機械の危険箇所を示し、残留リスクについて警告するものです。これらの場所では、たえまない危険や予期せぬ危険があります。

警告マークは、次の 2 つの欄で構成されます：

- 欄 1 は以下を示します：
 - 三角形の安全マークで囲まれた、危険エリアを表す絵
 - 注文番号
- 欄 2 は危険回避のための指示を示す絵です。



CMS-I-00000416

4.5.3 警告マークの説明

CMS-T-00001497-C.1

MD082

踏み板や台から落下する危険

- ▶ 機械の上に誰も同乗させないでください。
- ▶ 移動中の機械に誰も乗ることがないようにしてください。



CMS-I-000081

MD084

降下する機械パーツにより、体全体が押し潰される危険があります

- ▶ 危険エリアに人がいないことを確認してください。



CMS-I-000454

MD095

取扱説明書内の注記を守らないことにより事故が生じる恐れ

- ▶ 機械で作業する前に、本取扱説明書を読み、内容を理解してください。



CMS-I-000138

MD096

高圧で流れ出る油圧オイルによる、感染の危険

- ▶ 油圧ホースラインの漏れ箇所は、絶対に手や指で探さないでください。
- ▶ 油圧ホースラインの漏れは、絶対に手や指で塞ごうとしないでください。
- ▶ 油圧オイルによって負傷した場合、ただちに医師の診察を受けてください。

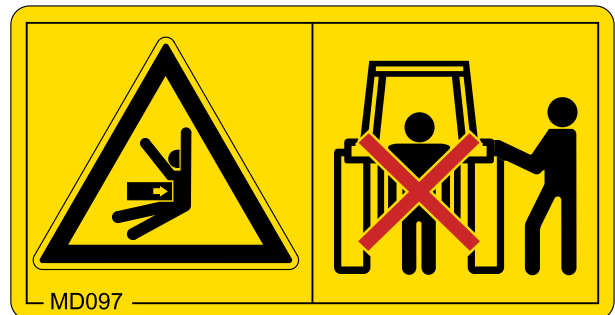


CMS-I-000216

MD097

トラクターと機械の間で押しつぶされる危険

- ▶ トラクター油圧系を操作する前に、トラクターと機械の間のエリアから離れるように周囲の人々に指示してください。
- ▶ トラクター油圧系は、所定の作業場所からのみ操作してください。

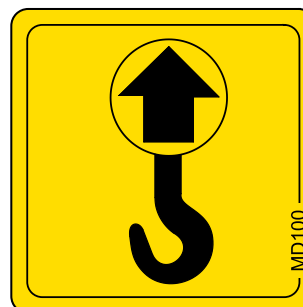


CMS-I-000139

MD100

不適切に取り付けた固定具による事故の危険

- ▶ 固定具は必ずマークが付いている位置に取り付けてください。



CMS-I-000089

MD102

機械が不意に始動して走り出すことによる危険

- ▶ 作業を開始する前には必ず、機械が不意に始動して走り出すことのないように固定してください。

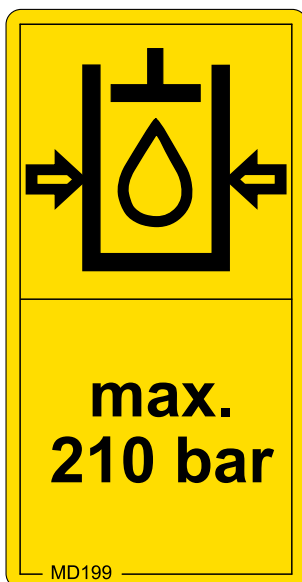


CMS-I-00002253

MD199

油圧システムの圧力が高すぎることによる、事故の危険

- ▶ 機械はトラクター油圧が 210 bar 以下であるトラクターだけに連結してください。



CMS-I-00000486

4.6 機械の銘板

CMS-T-00004505-D.1

- 1 機械番号
- 2 車両識別番号
- 3 製品
- 4 許容テクニカル機械重量
- 5 モデルイヤー
- 6 製造年



CMS-I-00004294

4.7 スレッドパック

CMS-T-00001776-B.1

スレッドパック内には次のものがあります：

- ドキュメント
- ツール



CMS-I-00002306

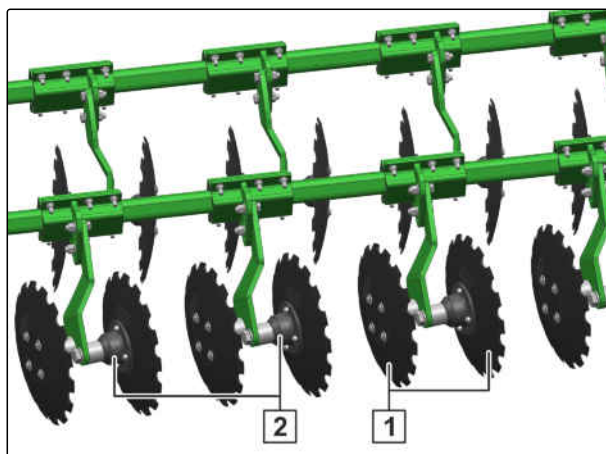
4.8 整地用ツール

CMS-T-00001500-E.1

4.8.1 中空ディスク

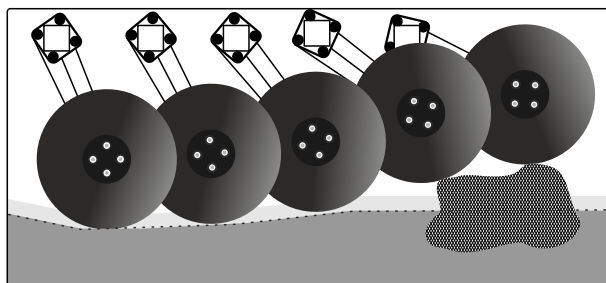
ディスクアレイには、鋸歯状の中空ディスク **1** が装備されています。ディスクの列は、ずらして配置されています。ディスクの軸受 **2** はメンテナンスフリーです。中空ディスクの作業強度は、作業深度によって設定されます。作業深度は、機械の装備に応じて、手動または油圧で設定されます。

CMS-T-00001501-C.1



CMS-I-00001023

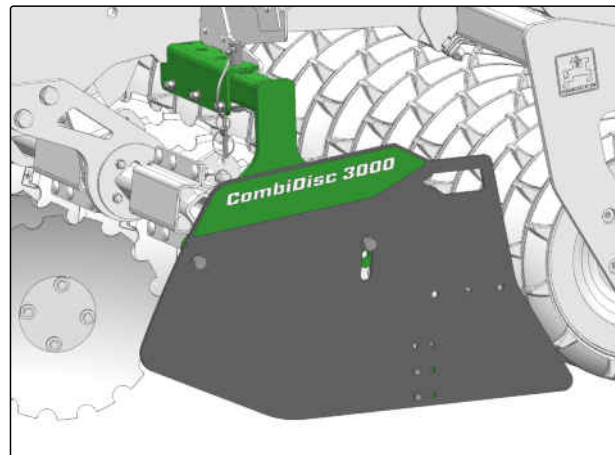
ラバースプリングサスペンションにより中空ディスクは、土壌の起伏に適応し、石などの固い障害物が抵抗する場合には回避します。サスペンションにより、各ディスクは過負荷から保護されています。



CMS-I-00000043

4.8.2 サイドガイドプレート

サイドガイドプレートは、作業幅全体にわたって土壌面の均等なレベリングを保証します。このためにサイドガイドプレートの作業幅と高さを設定できます。運転時には、サイドガイドプレートを上へ回避させることができます。輸送幅を減らすために、サイドガイドプレートを押し込みます。



CMS-T-00001656-C.1

CMS-I-00001024

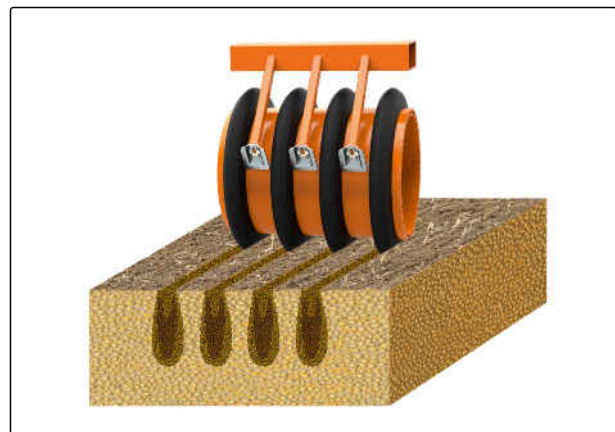
4.8.3 ローラー

CMS-T-00001504-E.1

4.8.3.1 ウェッジリングローラー KW

CMS-T-00000601-A.1

直径 580 mm のウェッジリングローラーは、通常の土壌にとっても適しています。設定可能なスクレーパーにより、ウェッジリング間のエリアは清潔に保たれます。

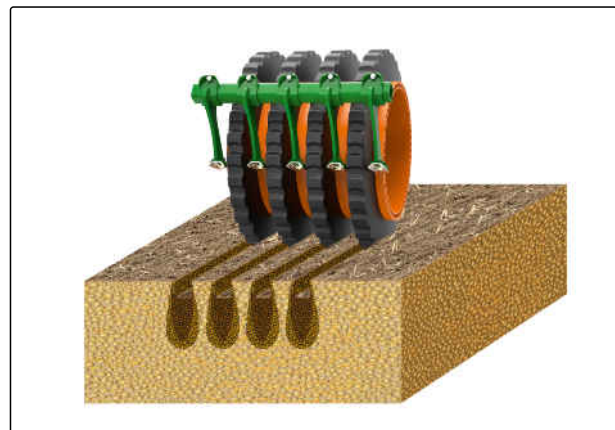


CMS-I-00000505

4.8.3.2 マトリックストレッド付きウェッジリングローラー

CMS-T-00000602-A.1

マトリックストレッド付きで直径が 650 mm のウェッジリングローラーは、軽い土壌、通常の土壌、そして重い土壌に非常によく適しています。設定可能なスクレーパーにより、ウェッジリング間のエリアは清潔に保たれます。

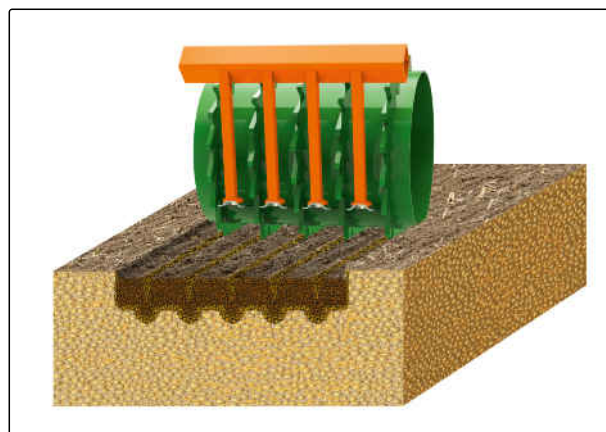


CMS-I-00000510

4.8.3.3 ツースパッカーローラー PW

CMS-T-00000121-B.1

直径 600 mm のツースパッカーローラーは、通常の土壌および重い土壌に非常によく適しています。設定可能なスクレーパーにより、スプロケットの間のエリアは清潔に保たれます。

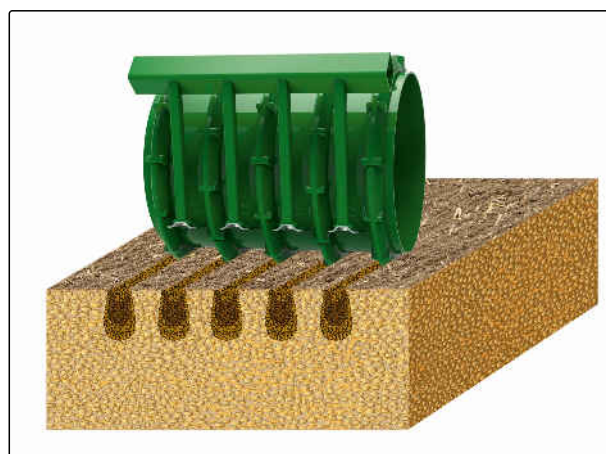


CMS-I-00000508

4.8.3.4 トラピーズリングローラー TRW

CMS-T-00001508-A.1

直径 500 mm のトラピーズリングローラーは、通常の土壌にとっても適しています。より大きな 600 mm のトラピーズリングローラーは、重い土壌に適しています。



CMS-I-00000962

4.8.3.5 他社パッカーローラー

CMS-T-00005061-B.1

AMAZONE ローラープログラムは、サプライヤーのローラーによって補完されています。

他社パッカーローラー	作業幅 3 m	作業幅 4 m	ローラーフレーム
Güttler 社のダクティル鉄製リング付きシンプルックス・プリズムローラー	3000-SX-45 SG	/	1 パイプローラーフレーム
Güttler 社のシンセティック・ウルトラリング付きシンプルックス・プリズムローラー	3000-SX-45 SU	/	
	3000-SX-50 SU	4000-SX-50 SU	2 パイプローラーフレーム
	3000-SX-56 SU	4000-SX-56 SU	

4.9 汎用調整ツール

CMS-T-00001735-B.1

機械の設定作業は、汎用調整ツール **1** を用いて行います。汎用調整ツールは、機械フレームのホルダーにかけられます。



CMS-I-00001082

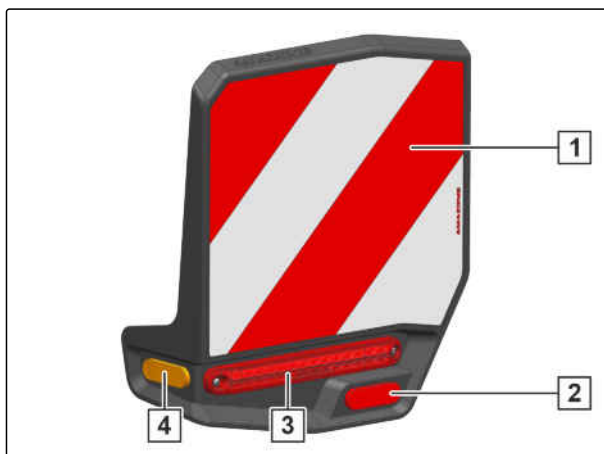
4.10 道路走行用の照明と識別

CMS-T-00006398-A.1

4.10.1 後方の照明と識別

CMS-T-00001498-C.1

- 1** 警告板
- 2** リフレクター、赤
- 3** テールライト、ブレーキライトおよびターンインジケータ
- 4** リフレクター、黄



CMS-I-00004545



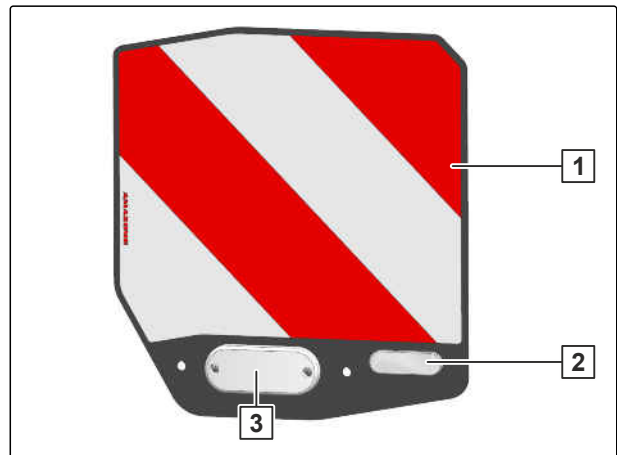
注記

道路走行用の照明と識別は、国の規制によって異なる場合があります。

4.10.2 前方の照明と識別

CMS-T-00006393-A.1

- 1 警告板
- 2 リフレクター、白
- 3 パーキングライト



CMS-I-00002940



注記

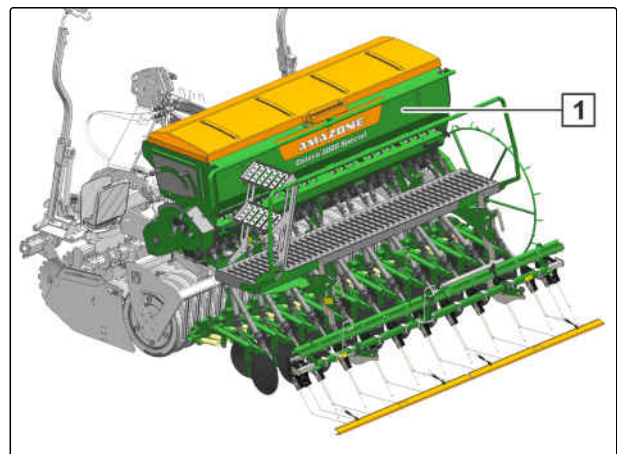
道路走行用の照明と識別は、国の規制によって異なる場合があります。

4.11 クイックカップリングシステム クイックリンク

CMS-T-00001659-B.1

整地機械は、クイックカップリングシステムを用いて、トップマウント式シードドリルと組み合わせることができます。クイックカップリングシステム クイックリンクは、ローラーフレームの上側連結点 1 つと下側連結点 2 つで構成されています。

機械的なトップマウント式シードドリル **1** と組み合わせた整地機械。



CMS-I-00001026

技術データ

5

CMS-T-00003163-D.1

5.1 寸法

CMS-T-00003165-B.1

寸法	CombiDisc 3000 [mm]
輸送幅	3000
搬送高さ	1560
全長	1870
作業幅	3000
重心の距離	1100

5.2 許容総重量

CMS-T-00003167-B.1

CombiDisc 3000
4180 kg

5.3 整地用ツール

CMS-T-00003169-A.1

CombiDisc 3000	
中空ディスク数	24
中空ディスクの厚さ	4 mm
ディスク直径	410 mm
1 列目角度	14°
2 列目角度	12°
作業深度	30~80 mm

5.4 接続カテゴリー

CMS-T-00003170-B.1

タイプ	
単独の機械としての CombiDisc 3000	カテゴリー 3 の上部リンク カテゴリー 2 またはカテゴリー 3 の下部リンク
コンビネーションシーダーとしての CombiDisc 3000	カテゴリー 3

5.5 クイックカップリングシステム クイックリンク

CMS-T-00003190-C.1

機械の作業幅	クイックリンクソケットの間隔
2.5 m	1529 ±3 mm
3 m	2029 ±3 mm
3.5 m	2529 ±3 mm
4 m	3029 ±3 mm

5.6 作業速度

CMS-T-00003171-B.1

CombiDisc 3000
8~15 km/h

5.7 トラクターの性能特性

CMS-T-00003172-A.1

エンジン出力	
単独の機械として使用	コンビネーションシーダーとして使用
CombiDisc 3000	CombiDisc 3000
59 kW / 80 HP 以上	103 kW / 140 HP 以上

電気系統	
バッテリー電圧	12 V
照明用電気ソケット	7 極

油圧系統	
最大作業圧力	210 bar
トラクターポンプ出力	150 bar で 15 l/min 以上
機械の油圧オイル	HLP68 DIN51524 この油圧オイルは、市場に流通しているあらゆるトラクターのコンビ型油圧オイル回路に適しています。
制御装置	機械の装備に応じて異なる

5.8 騒音発生データ

CMS-T-00002296-B.1

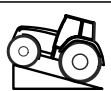
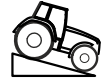
作業に関連して発生する音圧レベルは 70 dB (A) 未満です。この値は運転時にキャビンのドアを閉じた状態で、トラクターの運転手の耳の位置で測定しました。

発生する音圧レベルの高さは、基本的に使用する車両によって異なります。

5.9 走行可能な斜面勾配

CMS-T-00002297-C.1

傾斜を横断		
進行方向で左側	15 %	
進行方向で右側	15 %	

傾斜を上昇/傾斜を下降		
傾斜を上昇	15 %	
傾斜を下降	15 %	

5.10 潤滑剤

CMS-T-00002396-A.1

メーカー	潤滑剤
ARAL	Aralub HL2
FINA	Marson L2
ESSO	Beacon 2
SHELL	Ratinax A

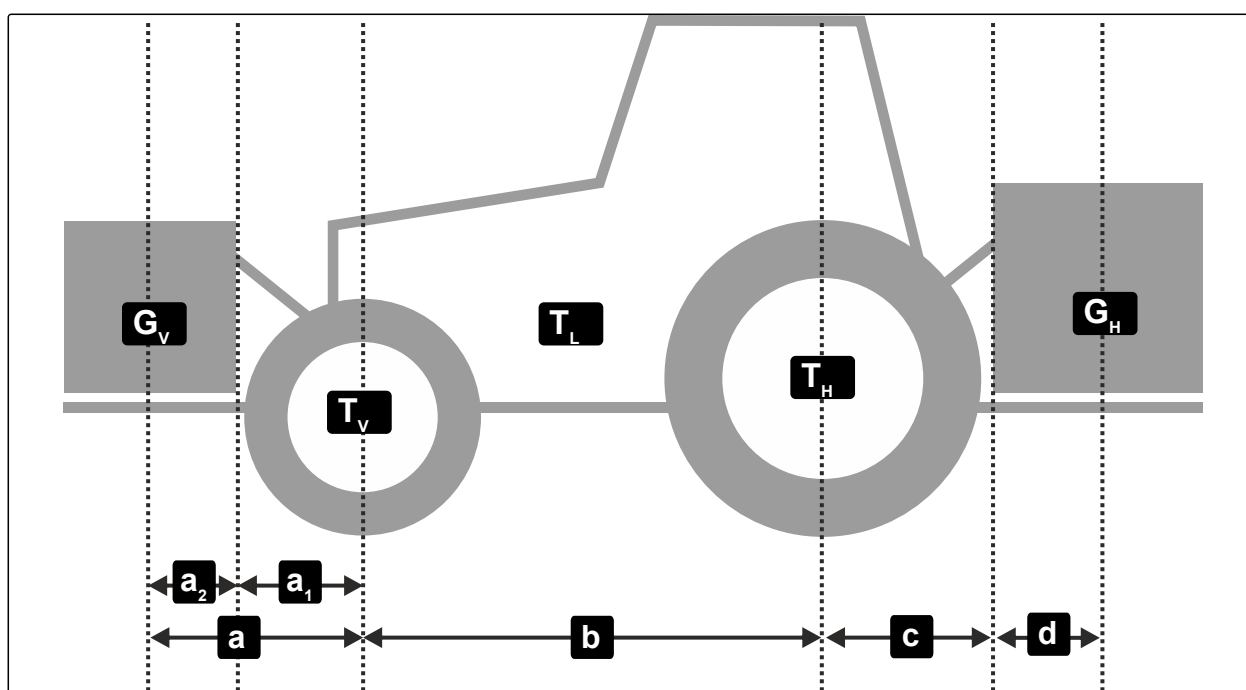
機械の準備

6

CMS-T-00001472-D.1

6.1 必要なトラクター特性を計算

CMS-T-00000063-B.1



CMS-I-00000581

名称	単位	説明	検出された値
T_L	kg	トラクターの自重	
T_V	kg	搭載型機械またはバラストなしの、運転準備が整ったトラクターの前輪軸荷重	
T_H	kg	搭載型機械またはバラストなしの、運転準備が整ったトラクターの後輪軸荷重	
G_V	kg	フロント側に取り付けた機械またはフロントバラストの総重量	
G_H	kg	リア側に取り付けた機械またはリアバラストの許容総重量	
a	m	フロント側に取り付けた機械またはフロントバラストの重心と、前輪軸の中心の間の距離	
a_1	m	前輪軸中央とリフトアーム接続部中央の間の距離	

6 | 機械の準備
必要なトラクター特性を計算

名称	単位	説明	検出された値
a_2	m	重心の距離：フロント側に取り付けた機械またはフロントバラストの重心と、リフトアーム接続部中心の間の距離	
b	m	軸距	
c	m	後輪軸中央とリフトアーム接続部中央の間の距離	
d	m	重心の距離：下側リンク連結点の中心と、トラクターの後部に取り付けた機械またはリアバラストの重心の間の距離。	

1. 前部最小バラストを計算します。

$$G_{Vmin} = \frac{G_H \cdot (c + d) - T_V \cdot b + 0,2 \cdot T_L \cdot b}{a + b}$$

$$G_{Vmin} = \underline{\hspace{2cm}}$$

$$G_{Vmin} = \underline{\hspace{2cm}}$$

CMS-I-00000513

2. 実際の前輪軸荷重を計算します。

$$T_{Vtat} = \frac{G_V \cdot (a + b) + T_V \cdot b - G_H \cdot (c + d)}{b}$$

$$T_{Vtat} = \underline{\hspace{2cm}}$$

$$T_{Vtat} = \underline{\hspace{2cm}}$$

CMS-I-00000516

3. トラクターと機械の組み合わせの実際の合計重量を計算します。

$$G_{tat} = G_V + T_L + G_H$$

$$G_{tat} = \underline{\hspace{2cm}}$$

$$G_{tat} = \underline{\hspace{2cm}}$$

CMS-I-00000515

4. 実際の後輪軸荷重を計算します。

$$T_{Htat} = G_{tat} - T_{Vtat}$$
$$T_{Htat} =$$
$$T_{Htat} =$$

CMS-I-00000514

5. メーカー指定の 2 本のトラクタータイヤのタイヤ負荷能力を検出します。

6. 検出した値を以下の表にメモします。



重要

過剰な負荷のための機械損傷による事故の危険

▶ 算出した負荷が、許容負荷値以下であることを確認してください。

	計算に基づく実際の値			トラクターの取扱説明書に基づく許容値			2 本のトラクタータイヤ用のタイヤ負荷能力	
前部最小バラスト		kg	≤		kg		-	-
総重量		kg	≤		kg		-	-
前輪軸荷重		kg	≤		kg	≤		kg
後輪軸荷重		kg	≤		kg	≤		kg

6.2 機械の連結

CMS-T-00003183-C.1

6.2.1 3 点式取付用フレームの準備

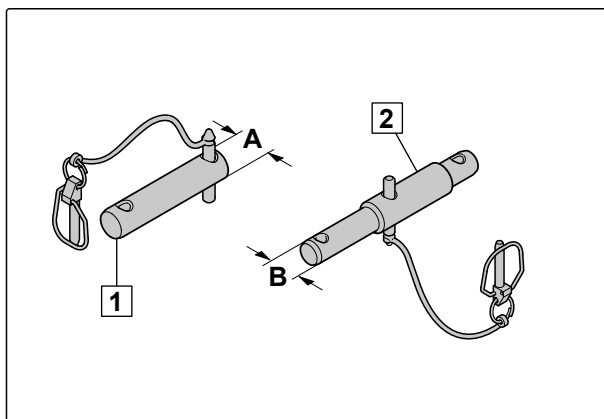
CMS-T-00003187-B.1

6.2.1.1 カテゴリー 2 用ボールスリーブの取り付け

CMS-T-00003188-B.1

寸法 接続カテゴリー 2	径
A	25 mm
B	28 mm

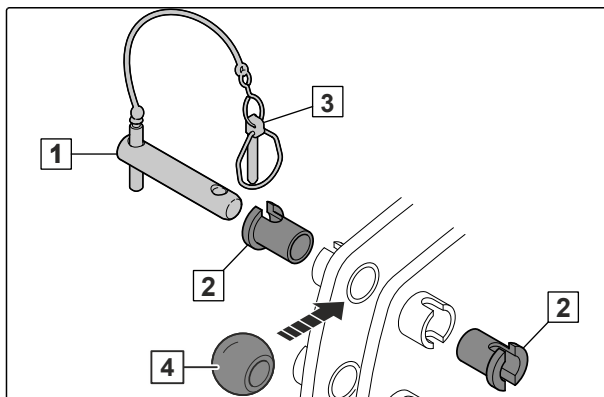
1. カテゴリー 2 の上側リンクピン **1** と下側リンクピン **2** を選択します。



CMS-I-00001816

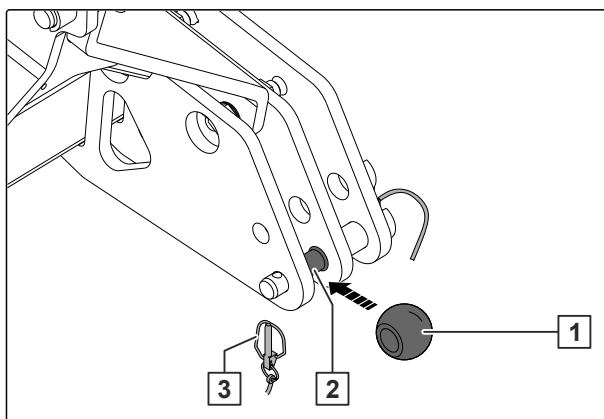
接続カテゴリー 2 の上側リンクピン **1** 用に、アダプタ **2** が必要です。

2. 上側リンクピンをアダプタと共にボアに差し込みます。
3. 上側リンクピンにボールスリーブ **4** を装着してください。
4. 上側リンクピンをリンチピン **3** で固定します。



CMS-I-00001221

5. 下側リンクピン **2** を外側から収容部へ差し込みます。
6. 下側リンクピンにボールスリーブ **1** を取り付けます。
7. 下側リンクピン **2** をリンチピンで固定します。



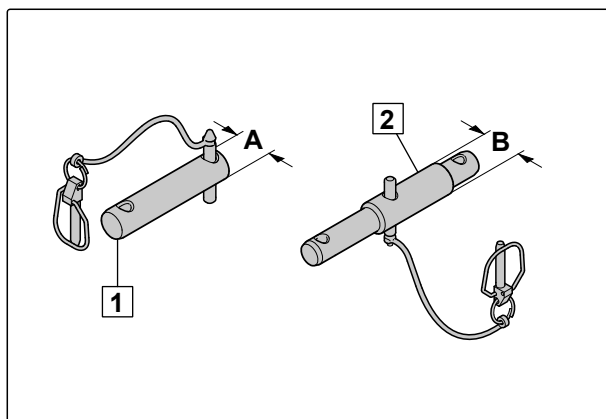
CMS-I-00002453

6.2.1.2 カテゴリー 3 用ボールスリーブの取り付け

CMS-T-00003189-B.1

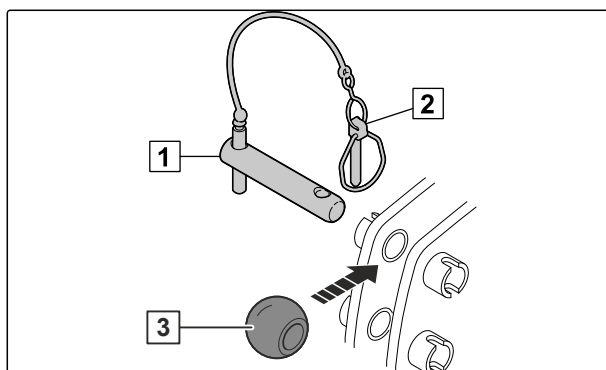
寸法 接続カテゴリー 3	径
A	31.7 mm
B	36.6 mm

1. カテゴリー 3 の上側リンクピン **1** と下側リンクピン **2** を取り付けます。



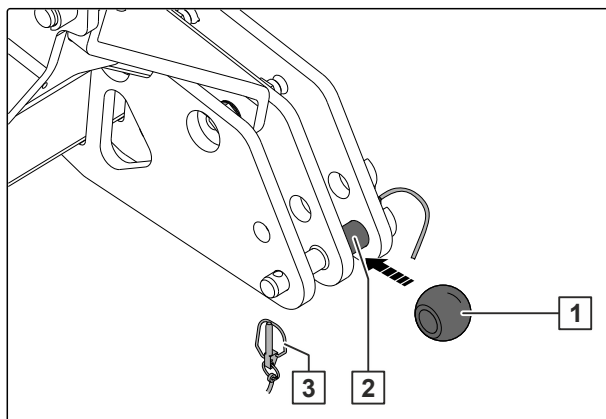
CMS-I-00001817

2. 上側リンクピン **1** をボアに差し込みます。
3. 上側リンクピンにボールスリーブ **3** を装着してください。
4. 上側リンクピンをリンチピン **2** で固定します。



CMS-I-00001220

5. 下側リンクピン **2** を外側から収容部へ差し込みます。
6. 下側リンクピンにボールスリーブ **1** を取り付けます。
7. 下側リンクピンをリンチピン **3** で固定します。

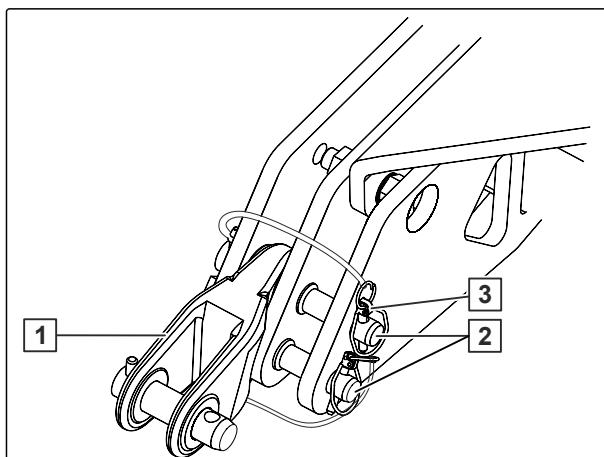
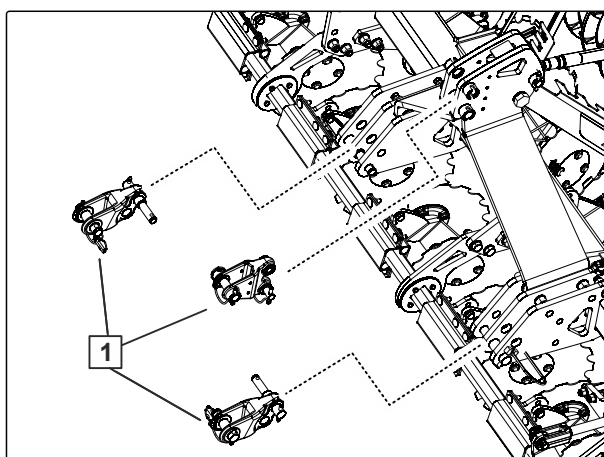


CMS-I-00002454

6.2.1.3 3 点式取付用フレームの延長部を取り付け

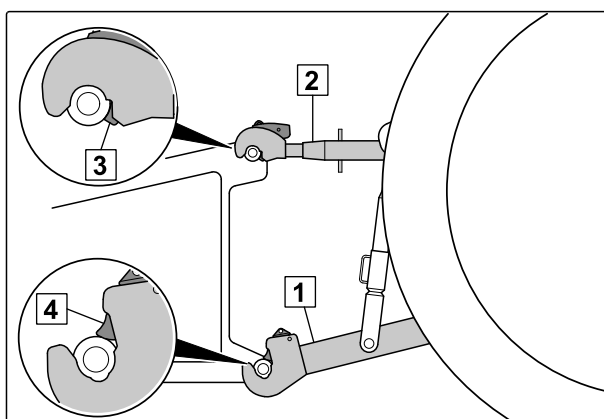
3 点式取付用フレームの延長部 **1** は、トラクターと機械の距離を広げるために使用します。

1. 3 点式取付用フレームの延長部は、3 個のスペーサ要素で構成されています。3 点式延長部はカテゴリ 3 の 3 点式取付用フレームに取り付けます。
2. 各スペーサ要素 **1** はカテゴリ 3 の 2 本のピン **2** を差し込んで機械に固定します。
3. すべてのピンをリンチピン **3** で固定します。



6.2.2 3 点式取付用フレームの連結

1. トラクターの下側リンク **1** を同じ高さに調節します。
2. トラクターの座席から、下側リンク **1** を連結します。
3. 上側リンク **2** を連結します。
4. 上側リンクキャッチフック **3** と下側リンクキャッチフック **4** を正しくロックしているかどうか確認します。



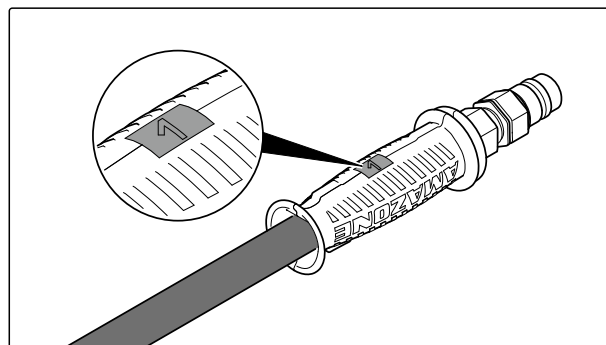
CMS-I-00001225

6.2.3 油圧ホースラインの連結

CMS-T-00006275-A.1

すべての油圧ホースにはグリップが備わっています。グリップには、識別番号または識別文字が記載された、色付きのマークがあります。このマークには、トラクター制御装置の圧力ラインの油圧機能が、それぞれ割り当てられています。このマークに関連して、該当する油圧機能を示すファイルが機械に貼り付けられています。

油圧機能に応じて、トラクター制御装置は様々な操作モードで使用します：



CMS-I-00000121

操作モード	油圧機能	記号
ラッチ式	恒常的な油圧油循環	
ばね復帰式	アクションが実行されるまでの油圧油フロー	
フロート式	トラクター制御装置内の自由な油圧油フロー	

マーク		機能			トラクター制御装置	
緑色			中空ディスクの作業深度	減少	複動式	
				拡大		
黄色			トラックマーカ	上昇	単動式	

**警告****最悪の場合死に至る、負傷の危険**

油圧ホースラインを正しく接続しないと、油圧機能にエラーが生じる可能性があります。

- ▶ 油圧ホースラインを連結する際には、油圧プラグの色付きマークに注意してください。

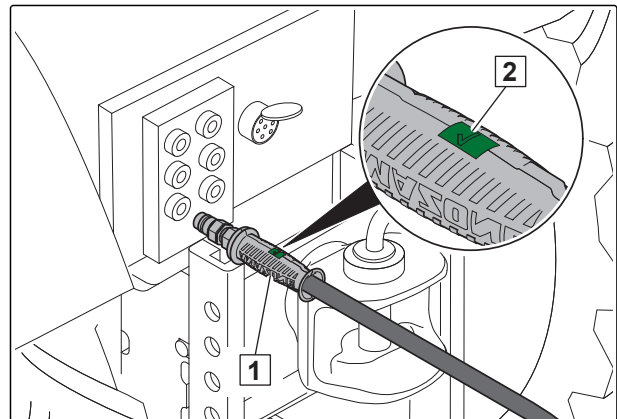


重要

不十分な油圧油逆流による機械破損

- ▶ 無圧の油圧油逆流には、DN16 ラインのみを使用してください。
- ▶ 逆流ラインは短いものを選択してください。
- ▶ 無圧の油圧油逆流を正しく連結してください。
- ▶ 一緒に納品されたカップリングスリーブを、無圧の油圧油逆流に取り付けてください。

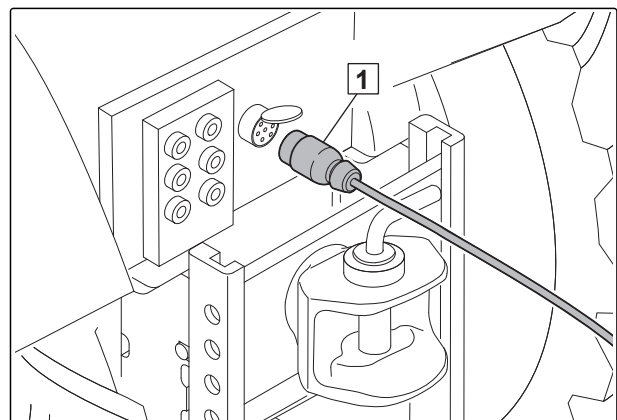
1. トラクターと機械の間の油圧系統を、トラクター制御装置で無圧にします。
 2. 油圧プラグを清掃します。
 3. 油圧ホースライン **1** を、マーク **2** に従って、トラクターの油圧ソケットと連結します。
- ➡ 油圧プラグがカチッという音とともにロックされます。
4. 動きの自由度が十分にあって、擦れる箇所が生じないように、油圧ホースラインを敷設します。



CMS-I-00001045

6.2.4 電圧供給を連結

1. 電圧供給用プラグ **1** を差し込みます。
2. 電源ケーブルは、動きの自由度が十分にあり、摩擦したり挟まる箇所が生じないように敷設します。
3. 機械の照明の機能を点検します。



CMS-I-00001048

6.3 機械の使用準備

CMS-T-00003184-C.1

6.3.1 作業深度の設定

CMS-T-00001475-C.1

6.3.1.1 中空ディスクの作業深度を手動設定

CMS-T-00001727-B.1

6.3.1.1.1 中空ディスクの作業深度を手動で増やす

CMS-T-00001554-B.1

1. 機械を降下させてください。

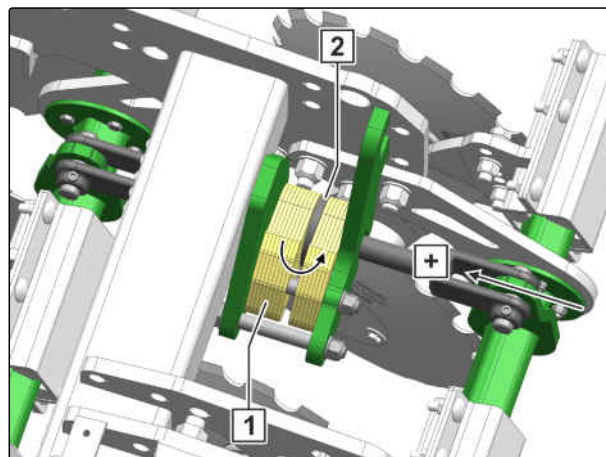
➡ 後部のスペーサ要素 **1** が解放されます。

2. 作業深度を増やすために、
ストップディスク **2** 後方のスペーサ要素を、希望する数だけ旋回させて外へ出します。

3. 機械を上昇させます。

➡ 前部のスペーサ要素が解放されます。

4. ストップディスク前方の、フリーなスペーサ要素を旋回させて入れます。



CMS-I-00000949



注記

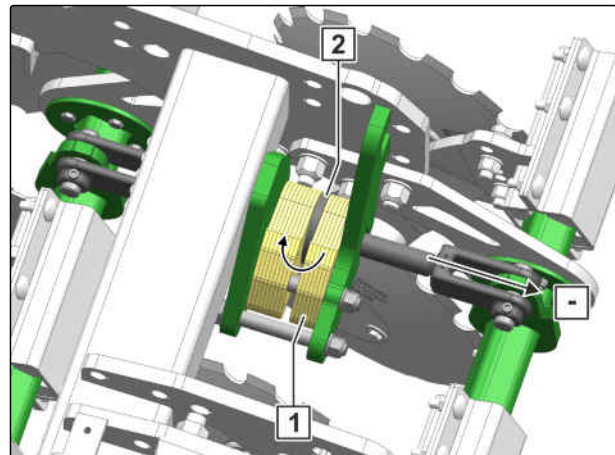
作業深度の選択は、次のような様々な要因によって決まります。

- 土壌の種類（軽い土壌から重い土壌、乾燥した土壌から濡れた土壌まで）
- 走行速度
- 設定
- 苗床の状態

6.3.1.1.2 中空ディスクの作業深度を手動で減らす

CMS-T-00001728-B.1

1. 機械を上昇させます。
➔ 前部のスペーサ要素 **1** が解放されます。
2. 作業深度を減らすために、
ストップディスク **2** の前方にあるスペーサ要素
を、希望する数だけ回転させて外へ出します。
3. 機械を降下させてください。
➔ 後部のスペーサ要素が解放されます。
4. ストップディスク後方の、フリーなスペーサ要素
を回転させて入れます。



CMS-I-00003764



注記

作業深度の選択は、次のような様々な要因によって決まります。

- 土壌の種類（軽い土壌から重い土壌、乾燥した土壌から濡れた土壌まで）
- 走行速度
- 設定
- 苗床の状態

6.3.1.1.2 中空ディスクの作業深度を油圧で設定

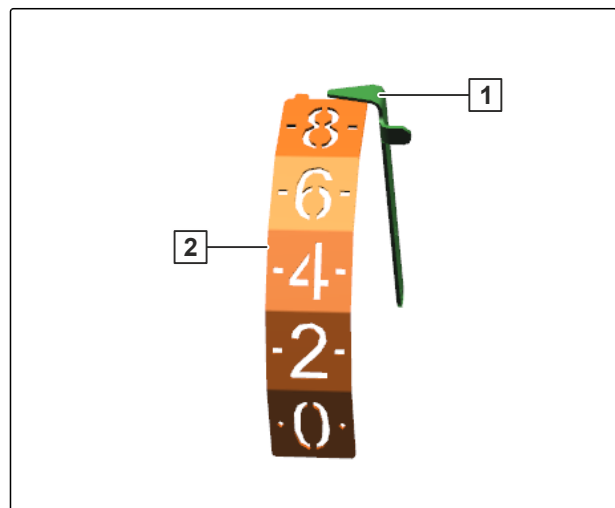
CMS-T-00001482-C.1

矢印 **1** は、設定された作業深度の変更を表示します。目盛りは目安にすぎません。目盛り値は作業深度（センチメートル）に相当しません。

- ▶ 中空ディスクの作業深度を減らすために、
トラクター制御装置 "緑色 1" を操作

または

中空ディスクの作業深度を増やすために、
トラクター制御装置 "緑色 2" を操作します。



CMS-I-00002447

i 注記

作業深度の選択は、次のような様々な要因によって決まります。

- 土壌の種類（軽い土壌から重い土壌、乾燥した土壌から濡れた土壌まで）
- 走行速度
- 設定
- 苗床の状態

6.3.1.3 個々の中空ディスクの作業深度を手動設定

CMS-T-00001480-B.1

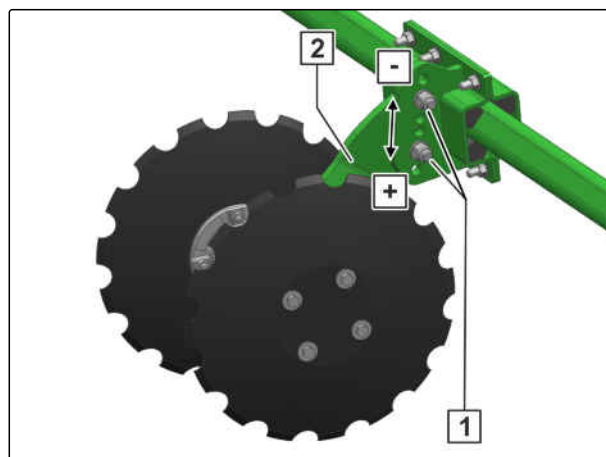


注意

手が押しつぶされる危険

- ▶ ハンドルとしてトラニオンとハブを使用してください。

1. ねじ **1** を取り外します。
2. レベリングを改善したり、盛り土の形成を避けるために、ホルダーアーム **2** に取り付けられた中空ディスクのペアを、希望する位置に設定します。
3. ねじ **1** を設置し、締め付けます。
4. 機械を 30 m ~ 50 m の距離で、作業速度で稼働させます。
5. 苗床を点検します。
6. 均等な苗床ができるまで、このプロセスを繰り返します。

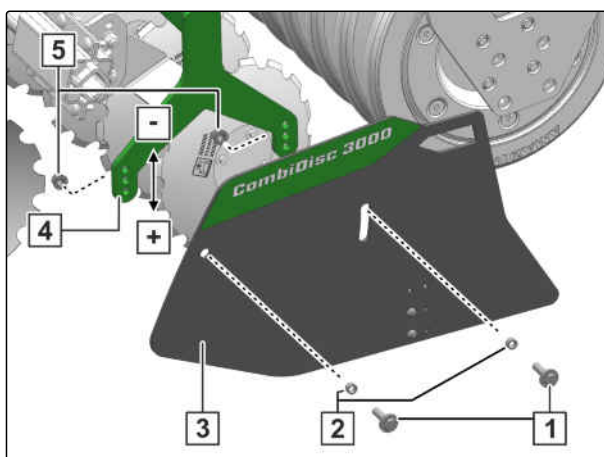


CMS-I-00000947

6.3.1.4 サイドガイドプレートの作業深度を設定

CMS-T-00001483-B.1

1. ナットとディスク [5] を取り外します。
2. サイドガイドプレート [3] の作業深度を設定するために、
サイドガイドプレートを穴パターン [4] の希望する位置に取り付けます。
3. ねじ [1] とスペーサー [2] を取り付けます。
4. ナットとディスクを取り付けます。
5. 機械を 30 m ~ 50 m の距離で、作業速度で稼働させます。
6. 苗床を点検します。
7. 均等な苗床ができるまで、このプロセスを繰り返します。



CMS-I-00000946

6.3.2 サイドガイドプレートの使用準備

CMS-T-00001489-C.1

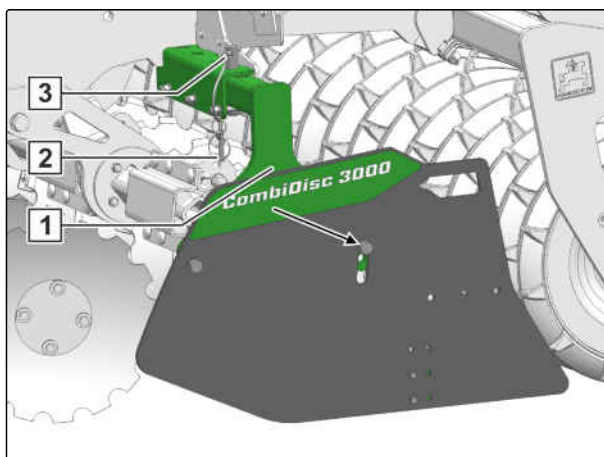


注意

手が押しつぶされる危険があります！

- ▶ サイドガイドプレートを慎重に伸縮します。

1. 機械を上昇させます。
2. リンチピン [2] を外します。
3. ピン [3] を引き出します。
4. 使用時に盛り土の形成を避けるために、
サイドガイドプレート [1] を希望する位置に設定します。
5. サイドガイドプレートをボルトで留めます。
6. ボルトをリンチピンで固定します。
7. 機械を 30 m ~ 50 m の距離で、作業速度で稼働させます。



CMS-I-00000953

8. 苗床を点検します。
9. 均等な苗床ができるまで、このプロセスを繰り返します。

6.3.3 트랙마커の使用準備

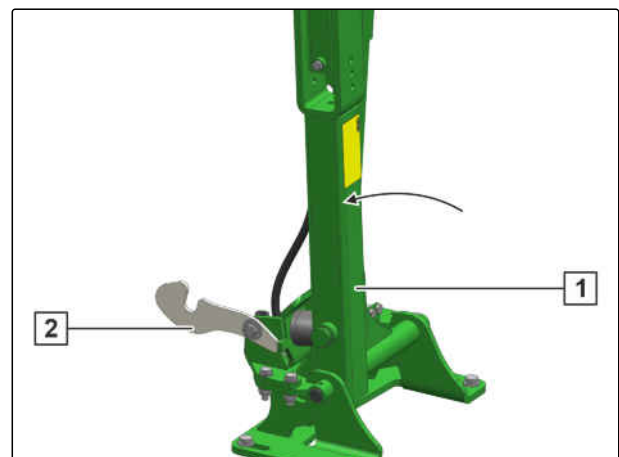
CMS-T-00001725-D.1

6.3.3.1 트랙마커を展開

CMS-T-00001561-C.1

油圧作動式 트랙마커가、交互に跡を付けます。트랙터의 운전수는、枕地で方向転換した後、この跡を目印にして正しい位置で走行を続けます。트랙마커は、長さと角度を設定できます。

1. 트랙터制御装置 "黄色" をニュートラル位置にします。
2. 트랙마커 **1** をゴム緩衝器に押し付けます。
- ➡ 走行安全用留め具 **2** が解放されます。
3. 走行安全用留め具を旋回して戻します。
4. 트랙마커は、バネの圧力によってパーキング位置に移動します。
트랙마커を、ゆっくりとパーキング位置に旋回させます。
5. 機械の反対側で、このプロセスを繰り返します。
6. 트랙터制御装置 "黄色" をフロート位置にします。
- ➡ 트랙마커は作業位置に展開されます。
7. *間違った 트랙마커が作業位置に展開された場合、*
트랙터制御装置 "黄色" を操作します。
- ➡ 트랙마커が折り畳まれます。
8. 트랙터制御装置 "黄色" を改めてフロート位置にします。
- ➡ 反対側の 트랙마커が作業位置に展開されます。

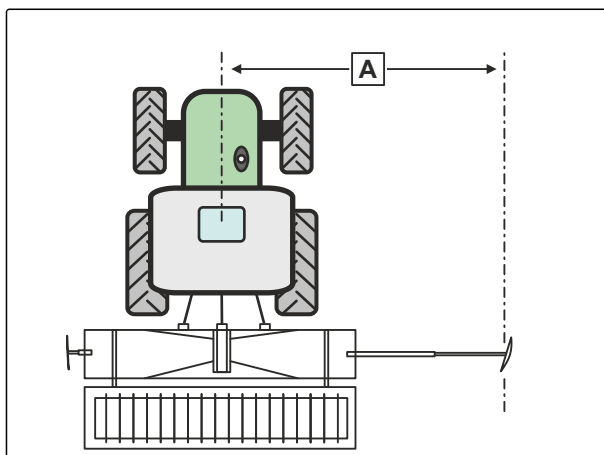


CMS-I-00000952

6.3.3.2 トラックマーカの長さを決定

機械の作業幅 [m]	距離 A [m]
2.5	2.5
3.0	3.0
3.5	3.5
4.0	4.0

- ▶ 機械中央からトラックマーカードискまでの距離 **A** を、表で読み取ります。

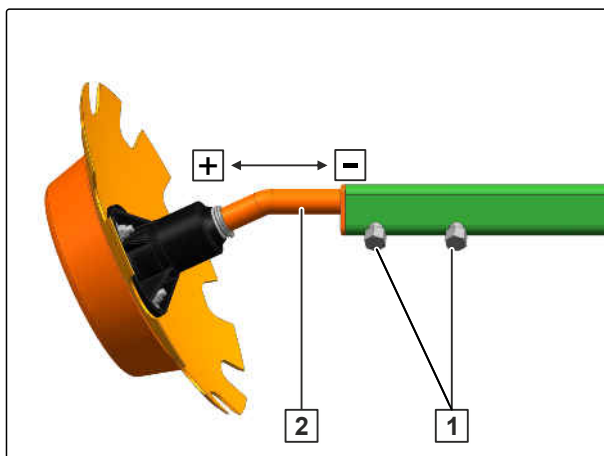


CMS-T-00004725-B.1

CMS-I-00003078

6.3.3.3 トラックマーカの長さを設定する

1. ねじ **1** を汎用調整ツールで緩めます。
2. 希望する距離になるまで、トラックマーカードиск **2** を引き出します。
3. ねじを汎用調整ツールで締めます。
4. 機械の反対側に設定を適用します。
5. 5 時間使用した後で、ねじ接続部に緩みが生じていないか点検します。



CMS-T-00001487-C.1

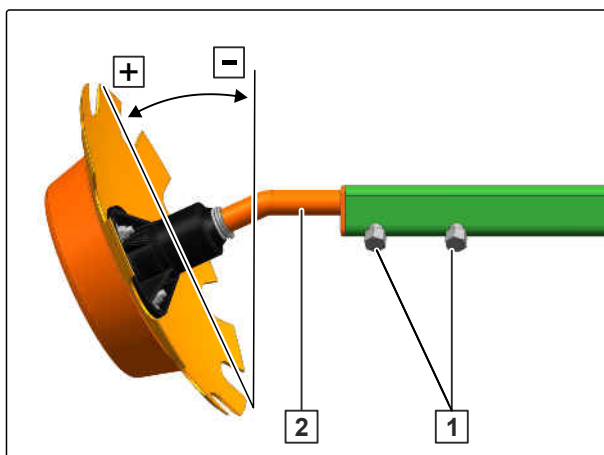
CMS-I-00001074

6.3.3.4 トラックマーカーク強度の設定

1. ねじ **1** を汎用調整ツールで緩めます。

作業での使用	迎え角
軽い土壌	縮小 - 進行方向とほぼ平行
重い土壌	拡大 + 進行方向に、よりグリップ

2. トラックマーカーク軸 **2** を回転して、トラックマーカードискを希望する位置にセットします。
3. ねじを汎用調整ツールで締めます。



CMS-T-00001726-C.1

CMS-I-00001077

4. 機械の反対側に設定を適用します。
5. 5 時間使用した後で、ねじ接続部に緩みが生じていないか点検します。

6.3.4 タイヤ跡消しの使用準備

CMS-T-00004718-B.1

6.3.4.1 タイヤ跡消しの作業深度を設定

CMS-T-00001486-C.1



重要

タイヤ跡消しホルダの摩耗が増加

- ▶ 短い間隔で過負荷保護が作動する場合、作業深度を減らしてください。
- ▶ 動きやすいタイヤ跡消しコールタに交換してください。



注記

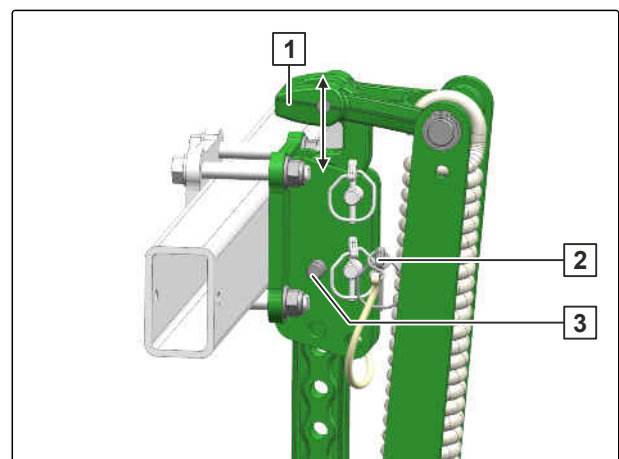
作業深度の設定は、各使用条件に合わせる必要があります。最適な設定は、圃場での使用においてのみ検出できます。

1. 機械を上昇させます。
2. リンチピン **2** を外します。
3. タイヤ跡消しのグリップ **1** を保持します。

4. 固定ピン **3** を取り外します。

最大作業深度は 150 mm です。

5. タイヤ跡消しを希望の位置に設定します。
6. タイヤ跡消しは、固定ピンを差し込んで固定します。
7. 固定ピンをリンチピンで固定します。

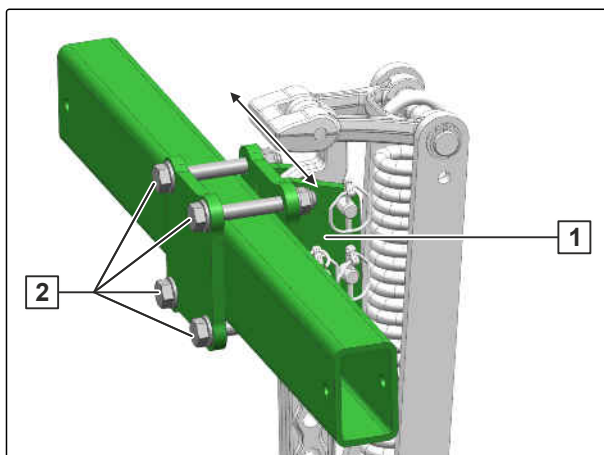


CMS-I-00000942

6.3.4.2 タイヤ跡消しのトレッド幅を設定

CMS-T-00001553-B.1

1. クランプ接続 [2] のナットを外します。
2. タイヤ跡消しホルダー [1] を希望する位置に設定します。
3. ナットを締めます。
4. 5 時間使用した後で、ねじ接続部に緩みが生じていないか点検します。

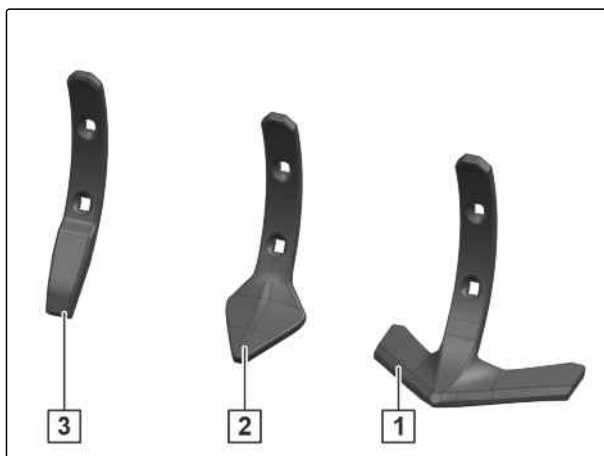


CMS-I-00000943

6.3.4.3 タイヤ跡消しコールタの交換

CMS-T-00002425-C.1

タイヤ跡消しには、様々なタイヤ跡消しコールタを取り付けることができます。タイヤ跡消しコールタの選択は、使用条件に左右されます。



CMS-I-00001967

番号	タイヤ跡消しコールタ	使用条件	必要な引張力
[1]	ウイング型コールタ	中程度／シルト質の土壌での、浅い耕起とレベリング	大きな引張力が必要
[2]	ハート型コールタ	様々な土壌での、中程度の耕起	中程度の引張力が必要
[3]	ナローコールタ	軽い土壌での、深い耕起	小さな引張力が必要

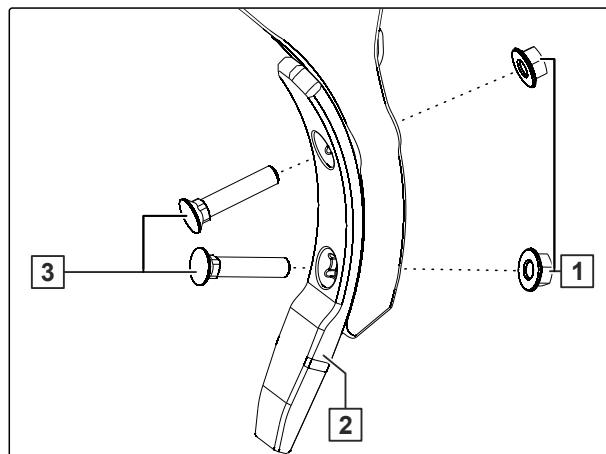


注意

コールタおよびネジ頭の鋭いエッジによる負傷の危険

- ▶ 手袋を着用してください。
- ▶ 鋭いエッジに注意してください。
- ▶ キャリッジボルトを一緒に回さないでください。

1. ナット **1** を取り外します。
2. ねじ **1** を取り外します。
3. 希望するタイヤ跡消しコルタ **2** をツールキャリアに取り付けます。
4. ねじ **3** を取り付けます。
5. ナットを取り付けて締めます。
6. 5 時間使用した後で、ねじ接続部に緩みが生じていないか点検します。

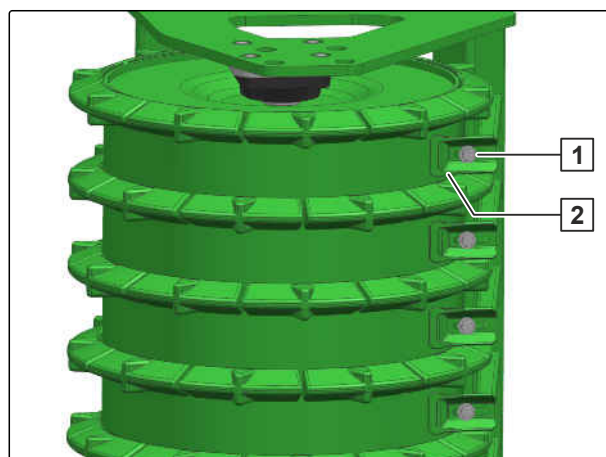


CMS-I-00001080

6.3.5 ローラーのスクレーパーを調整

ローラーのスクレーパーは工場側で設定されています。スクレーパーは作業条件に合わせることができます。

1. スクレーパー下にあるねじ **1** を外します。
2. スクレーパー **2** をスロット内で動かします。
3. 間隔を点検するために、ローラー **2** を回転します。
4. ねじを締めます。
5. すべてのスクレーパーに設定を適用します。



CMS-I-00000933

i 注記

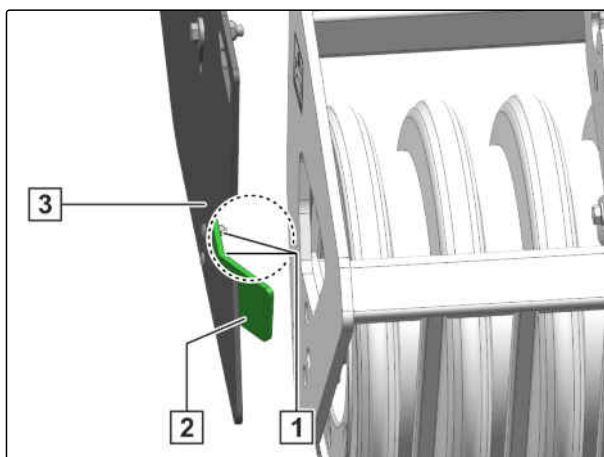
ローラーエレメントとスクレーパーの間の許容間隔：

- ウェッジリングローラー：10 mm ～ 15 mm
- ツースパッカーローラーとトラピースリングローラー：0.5 mm ～ 4 mm

6.3.6 土壌ガイドブラケットの設定

CMS-T-00005249-A.1

1. ナット **1** を取り外します。
2. 使用時に盛り土の形成を避けるために、土壌ガイドブラケット **2** をサイドガイドプレート **3** に、希望する穴パターンで取り付けます。
3. ナット **1** を取り付け、締めます。
4. 機械を 30 m ~ 50 m の距離で、作業速度で移動させます。
5. 苗床を点検します。
6. 均等な苗床ができるまで、このプロセスを繰り返します。



CMS-I-00003765

6.4 道路走行用に機械を準備

CMS-T-00001747-D.1

6.4.1 サイドガイドプレートを道路走行用に準備

CMS-T-00001490-C.1

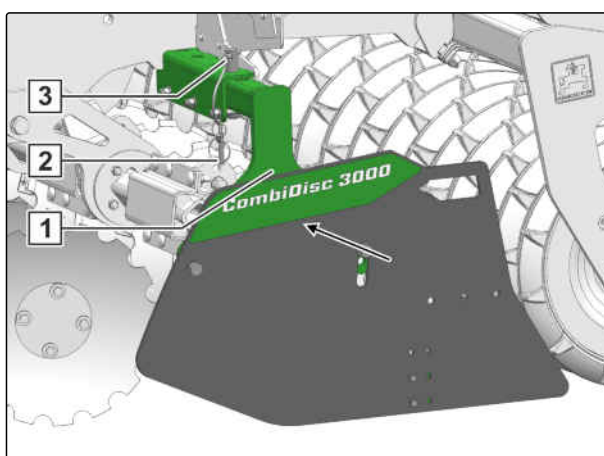


注意

手が押しつぶされる危険があります！

- ▶ サイドガイドプレートを慎重に伸縮します。

1. 機械を上昇させます。
2. リンチピン **2** を外します。
3. ピン **3** を引き出します。
4. 輸送幅を守るために、サイドガイドプレート **1** を希望する位置に設定します。
5. サイドガイドプレートをボルトで留めます。
6. ボルトをリンチピンで固定します。

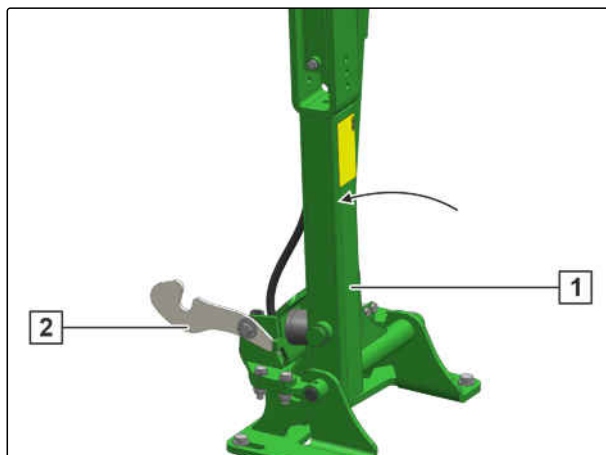


CMS-I-00000977

6.4.2 道路走行用にトラックマーカを準備

CMS-T-00001491-D.1

1. トラクター制御装置 "黄色" を操作します。
➡ トラックマーカを走行位置に畳みます。
2. トラックマーカ **1** をゴム緩衝器に押し付けます。
3. 走行安全用留め具 **2** をロックします。
4. 機械の反対側で、このプロセスを繰り返します。



CMS-I-00000952

6.5 許容積載重量を計算

CMS-T-00002254-C.1



警告

積載重量超過による事故の危険

積載重量を超過すると、機械が損傷したり、トラクターの運転動作が制御不能になる可能性があります。

- ▶ 機械の積載重量を入念に検出してください。
- ▶ 機械の積載重量は絶対に超過しないでください。

最大積載重量 = 許容テクニカル機械重量 - 自重

1. 許容テクニカル機械重量は、銘板から読み取ります。
2. 自重を得るために、空の機械の重さを量ります。
3. 積載重量を計算します。

機械を使用

7

CMS-T-00001492-A.1

7.1 機械を使用

CMS-T-00001531-A.1

単独の機械としての圃場での作業中、操作は枕地での機械の上昇・降下に制限されています。

1. 機械を土壌に対して水平に調節します。
2. 機械を圃場で降下させてください。
3. トラックマーカースを使用するため降下させます。
4. 3点式のパワーリフトの油圧システムをフロート位置に設定します。



注記

障害物を通過するために、アクティブなトラックマーカースを圃場で上昇させます。

作業中に、作業深度を油圧で設定できます。

7.2 機械を枕地で方向転換

CMS-T-00001532-A.1

1. カーブ走行時に横方向への負荷を避けるため、
枕地への進入前に整地工具を上昇させます。
2. 機械の方向が走行方向と一致する場合、
整地工具を降下させます。

機械を置く

8

CMS-T-00001609-D.1

8.1 タイヤ跡消しをパーキング位置にセット

CMS-T-00001616-B.1

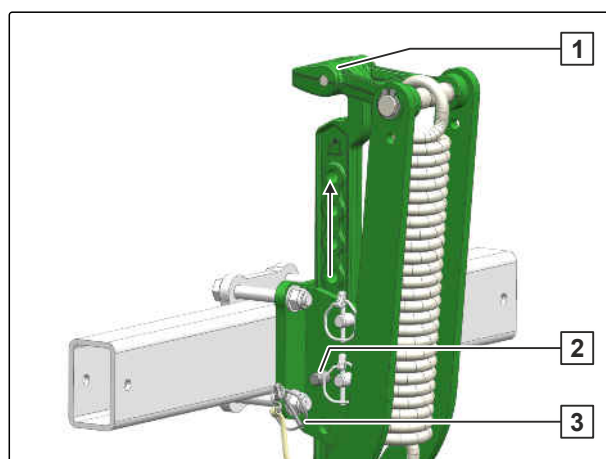


重要

機械の重量によるタイヤ跡消しの損傷

- ▶ 機械を置く場合は、
タイヤ跡消しをパーキング位置にしてください。

1. リンチピンを外します **3**。
2. タイヤ跡消しのグリップを保持します **1**。
3. 固定ピン **2** を取り外します。
4. グリップを持って、タイヤ跡消しを一番上の位置にします。
5. タイヤ跡消しは、固定ピンを差し込んで固定します。
6. 固定ピンをリンチピンで固定します。

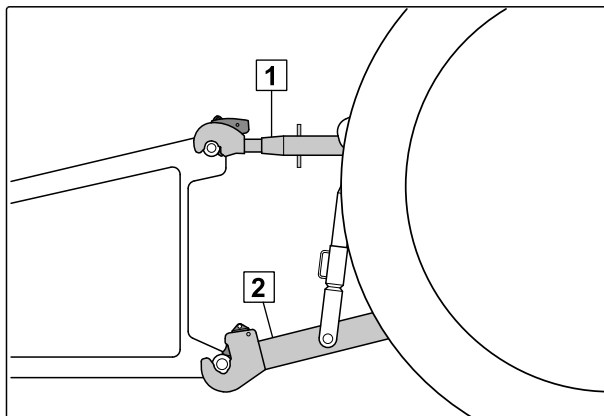


CMS-I-00000992

8.2 3 点式取付用フレームを連結解除

CMS-T-00001401-C.1

1. 機械を、水平で固い場所に置きます。
2. 上側リンク **1** を解放します。
3. 機械の上側リンク **1** を連結解除します。
4. 下側リンク **2** を解放します。
5. トラクターの座席から、機械のリフトアーム **2** を連結解除します。

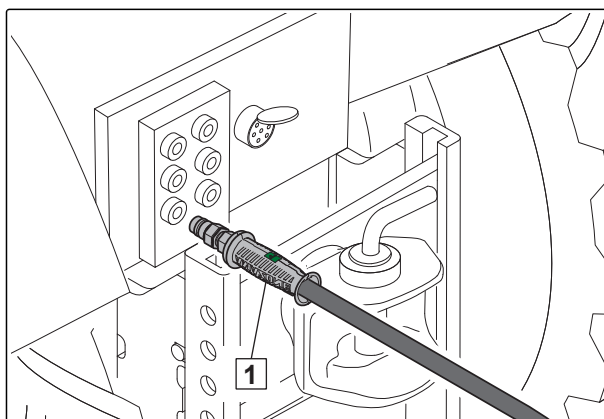


CMS-I-00001249

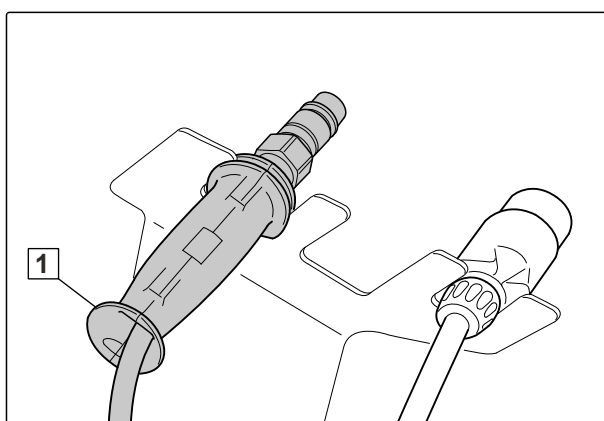
8.3 油圧ホースラインの連結解除

CMS-T-00000277-D.1

1. トラクターと機械を固定します。
2. トラクター制御装置の操作レバーをフロート位置にします。
3. 油圧ホースライン **1** を連結解除します。
4. ちり除けキャップを油圧系統のソケットに取り付けます。
5. 油圧ホースライン **1** をホースホルダーに掛けます。



CMS-I-00001065

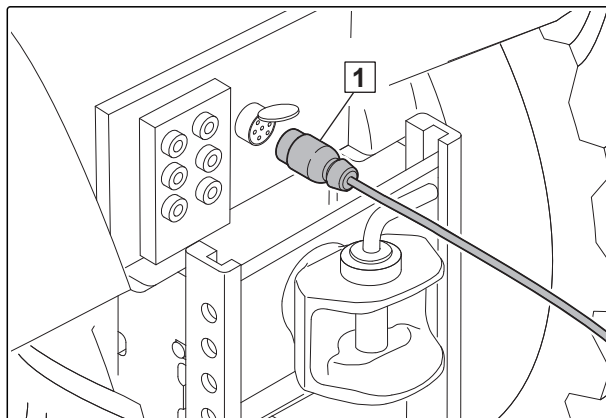


CMS-I-00001250

8.4 電圧供給の連結解除

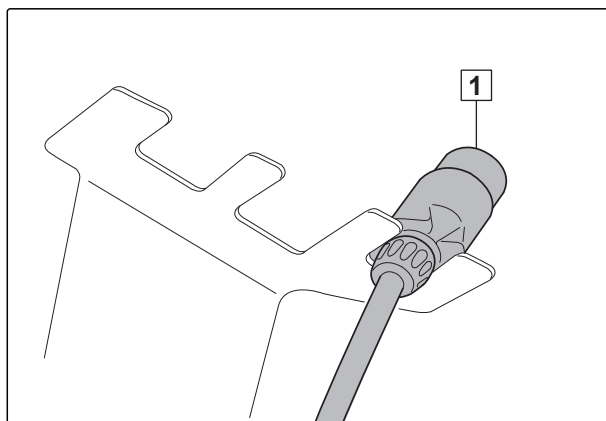
CMS-T-00001402-D.1

1. 電圧供給用プラグ **1** を引き抜きます。



CMS-I-00001048

2. プラグ **1** をホースホルダーに掛けます。



CMS-I-00001248

機械の修理

9

CMS-T-00001529-E.1

9.1 機械のメンテナンス

CMS-T-00003174-C.1

9.1.1 メンテナンススケジュール

初回使用後	
油圧ホースラインの点検	以下のページを参照 63
中空ディスクキャリアの接続を点検	以下のページを参照 64
ローラーの点検	以下のページを参照 66

必要に応じて	
ディスクの交換	以下のページを参照 64

毎日	
上下リンクピンの点検	以下のページを参照 63

50 運転時間ごと / 毎週	
油圧ホースラインの点検	以下のページを参照 63

50 運転時間ごと / 3 ヶ月ごと	
タイヤ跡消しコールドタの点検	以下のページを参照 65

200 運転時間ごと / 3 ヶ月ごと	
ローラーの点検	以下のページを参照 66

9.1.2 上下リンクピンの点検

CMS-T-00002330-C.1

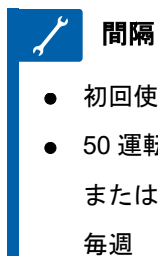


- 毎日

1. 上下リンクピンに亀裂や消耗箇所がないか点検します。
2. 摩耗が激しいピンは交換します。

9.1.3 油圧ホースラインの点検

CMS-T-00002331-B.1

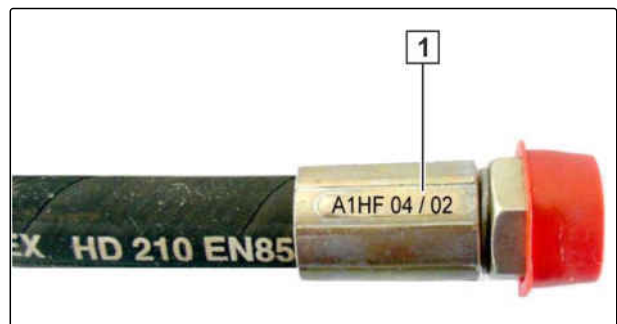


- 初回使用後
- 50 運転時間ごと
または
毎週

1. 油圧ホースラインに、擦れ跡や切断、亀裂、変形などの損傷がないか点検します。
2. 油圧ホースラインに漏れがないか点検します。

油圧ホースラインは、最大で 6 年間使用できます。

3. 製造日 **1** を確認してください。



CMS-I-00000532

4. 摩耗または損傷したり、古くなった油圧ホースラインは、直ちに専門工場で交換してもらいます。
5. 緩んだねじ接続部を締め直します。

9.1.4 ディスクの交換

CMS-T-00002327-C.1



間隔

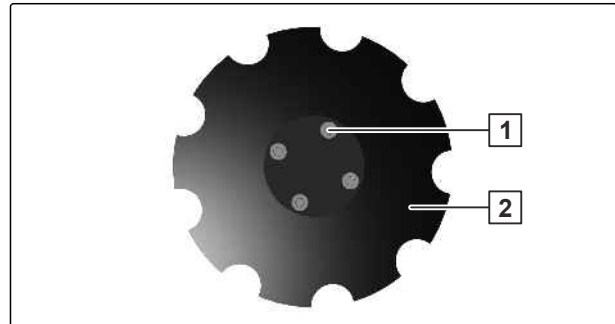
- 必要に応じて



必要条件

- ✓ 技術データに記載されている、摩耗限界に達しました。

1. 機械をわずかに上昇させます。
2. ディスクを固定している4本のねじ **1** を緩めます。
3. ディスク **2** を取り出します。
4. 新しいディスクを、4本のねじで固定します。



CMS-I-00002450

9.1.5 中空ディスクキャリアの接続を点検

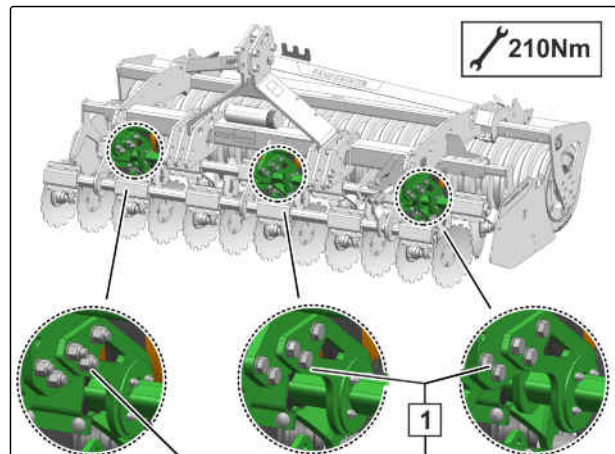
CMS-T-00003193-B.1



間隔

- 初回使用后

- ▶ ねじ継ぎ手 **1** が緩んでいないか点検します。



CMS-I-00000936

9.1.6 タイヤ跡消しコールタの点検

CMS-T-00002497-C.1



間隔

- 50 運転時間ごと
または
3 ヶ月ごと

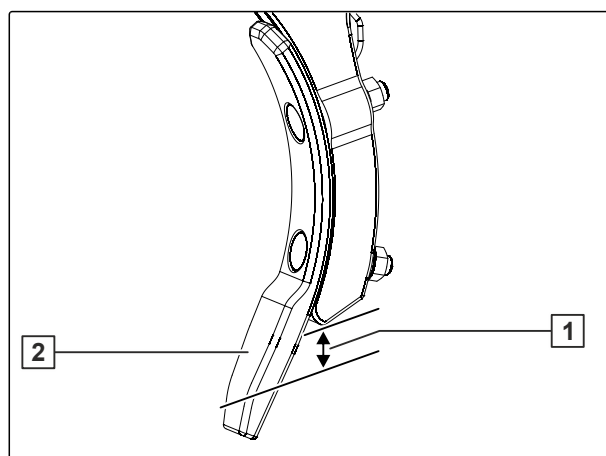


重要

ツールキャリアは、常に地中で作動すると摩耗します。

- ▶ タイヤ跡消しコールタの摩耗限界を超えると、ツールキャリアは常に地中で作動します。
摩耗限界に達したら、コールタを交換してください。

- ▶ コールタポイントとツールキャリアの間隔 **1** が 15 mm 未満の場合、
タイヤ跡消しコールタ **2** を交換します。



CMS-I-00001081

9.1.7 ローラーの点検

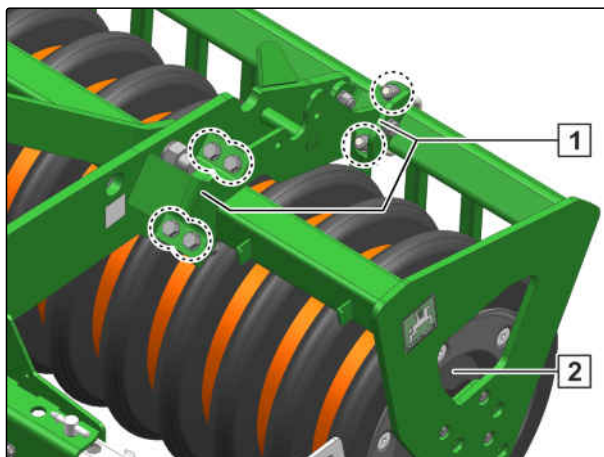
CMS-T-00003191-B.1



間隔

- 初回使用后
 - 200 運転時間ごと
- または
- 3 ヶ月ごと

1. ねじ継ぎ手 **1** のアラインメントを点検します。
2. ねじ継ぎ手が緩んでいないか点検します。
3. ローラーの軸受がスムーズに動くか点検するために、ローラー **2** を手で回します。



CMS-I-00001079

9.2 機械の潤滑

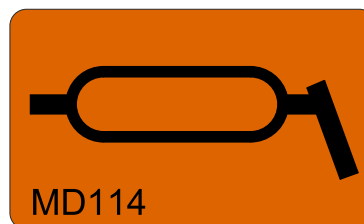
CMS-T-00003175-B.1



重要

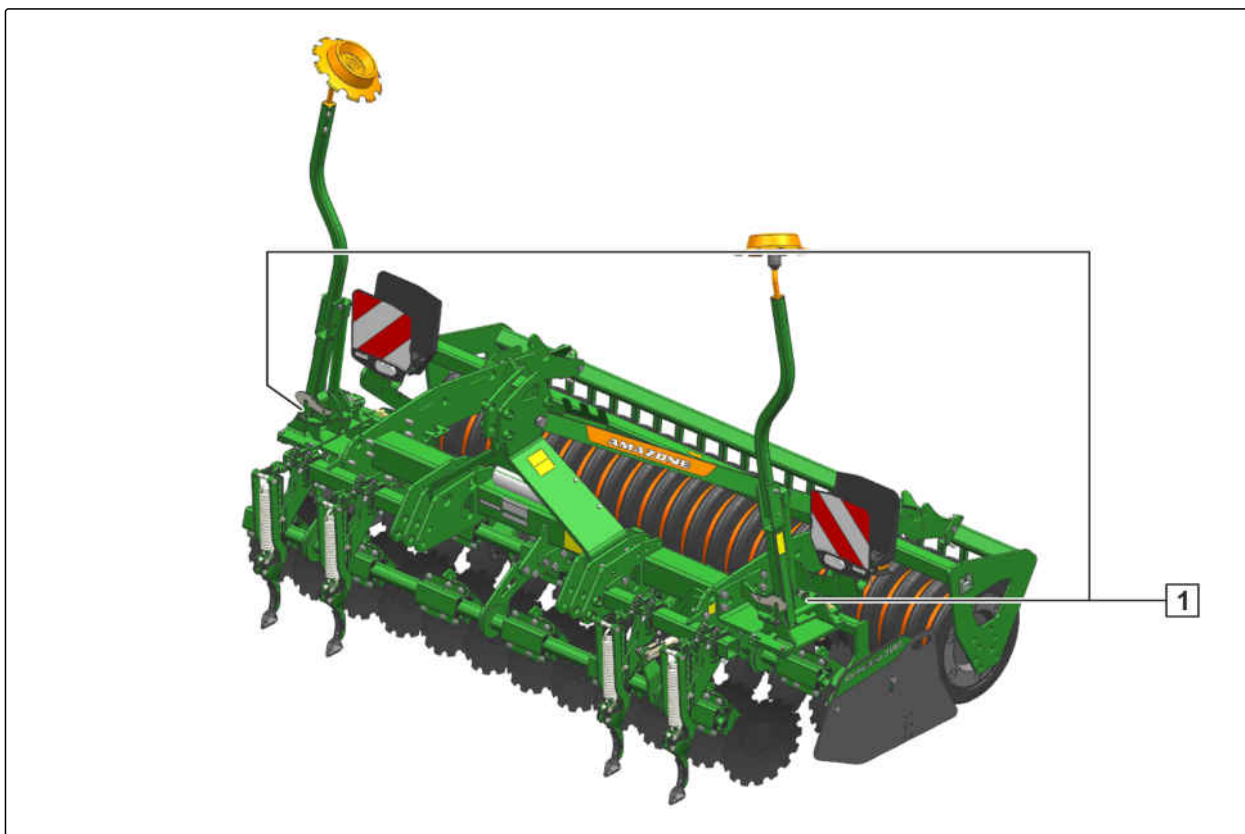
不適切な潤滑による機械損傷

- ▶ 潤滑計画に従って、マークされた潤滑ポイントで、機械を潤滑します。
- ▶ 汚れが潤滑ポイントに入り込まないように、
グリースニップルとグリースガンを丁寧に清掃してください。
- ▶ 技術データに記載されている潤滑剤のみを用いて、機械を潤滑してください。
- ▶ 汚れたグリースは、軸受から完全に押し出してください。



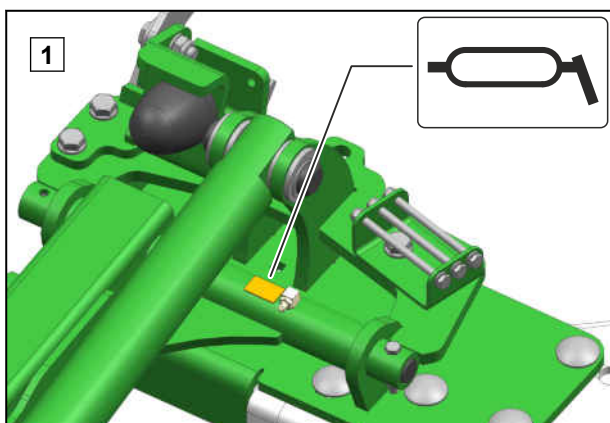
9.2.1 潤滑ポイント概要

CMS-T-00003176-B.1



CMS-I-00002452

50 運転時間ごと



CMS-I-00002080

9.3 故障を取り除く

CMS-T-00003178-B.1

エラー	原因	解決法
パッカーローラーがスムーズに回転しません。	ツースパッカーローラーを初めて使用する際に色の粘着などでツースパッカーローラーがスムーズに回転しない場合には	▶ ローラーを固い地面上で引いてください。
トラックマーカの衝突安全装置が作動しています。	トラックマーカは硬い障害物に衝突しました。せん断ボルトが折れ、トラックマーカが後方へ置まれています。	以下のページを参照 70
道路走行用の照明が機能エラーを表示します。	発光体または照明用供給ラインが破損しています。	▶ 発光体を交換します。 ▶ 照明用供給ラインを交換します。
間違ったトラックマーカが降下します。	トラクター制御装置の操作時に、間違ったトラックマーカが降下します。	▶ 制御装置を複数回切り替えます。
タイヤ跡消しの引張ばねが破損しています。		▶ 引張ばねの取り付けと取り外しを行う場合には、カスタマーサービスまたはディーラーに連絡してください。

9.3.1 トラックマーカの衝突安全装置が作動しています。

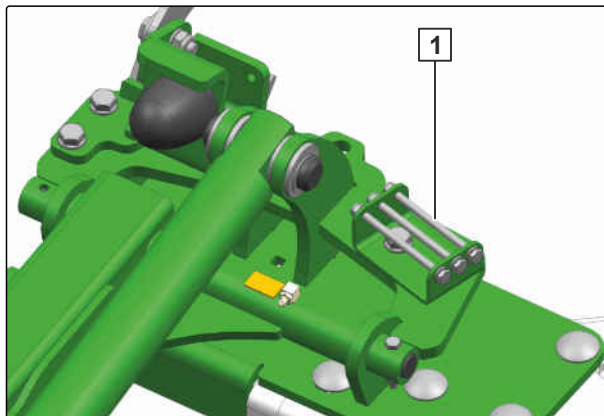
CMS-T-00002345-B.1

トラックマーカは硬い障害物に衝突しました。せん断ボルトが折れ、トラックマーカが後方へ畳まれています。

注記

必ず純正ボルトと交換してください。オンラインの交換パーツリストを参照。交換用ボルトはトラックマーカホルダ **1** にあります。

1. 破損したねじを過負荷保護から取り外します。
2. 交換用ボルトはトラックマーカアームに差し込みます。
3. 交換用ボルトを締め付けます。



CMS-I-00002081

9.4 機械の清掃

CMS-T-00000593-C.1



重要

高圧ノズルの噴流により機械が破損する危険

- ▶ 高圧洗浄機または熱水式高圧洗浄機の噴流は、マークされたコンポーネントに決して向けないでください。
 - ▶ 高圧洗浄機または熱水式高圧洗浄機の噴流は、絶対に電気部品や電子部品に向けないでください。
 - ▶ 噴流を、決して注油箇所やベアリング、銘板、警告マーク、接着フィルムに直接向けないでください。
 - ▶ 高圧ノズルと機械の間隔は、必ず 300 mm 以上に保ってください。
 - ▶ 水圧は 120 bar 以下を設定してください。
- ▶ 機械を高圧洗浄機または熱水式高圧洗浄機で清掃します。

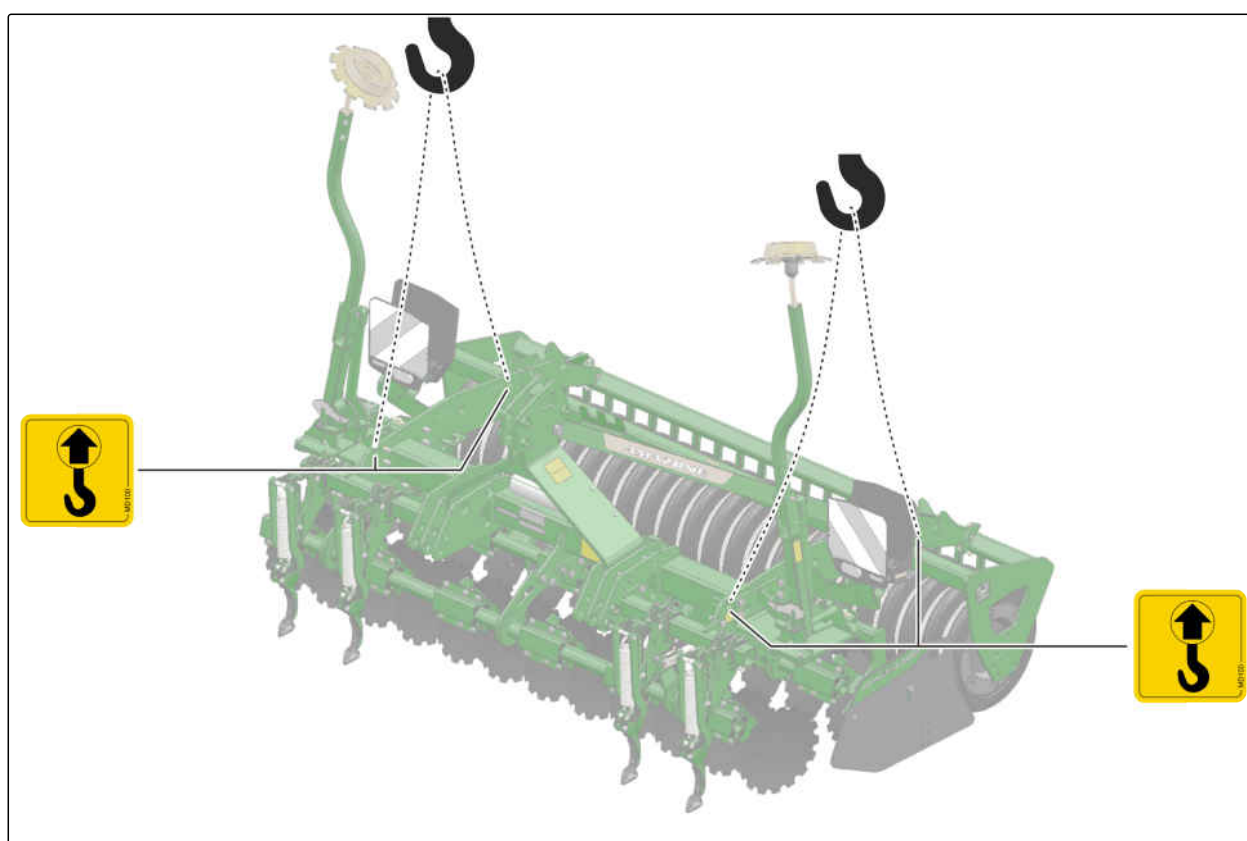
機械の積載

10

CMS-T-00001527-D.1

10.1 機械の上昇

CMS-T-00001528-D.1



CMS-I-00001012

機械には、リフト固定具用の固定箇所が4つあります。



警告

不適切に取り付けたリフト固定具による事故の危険

マークされていない固定箇所に固定具を取り付けると、リフト時に機械が損傷したり、安全性が損なわれる恐れがあります。

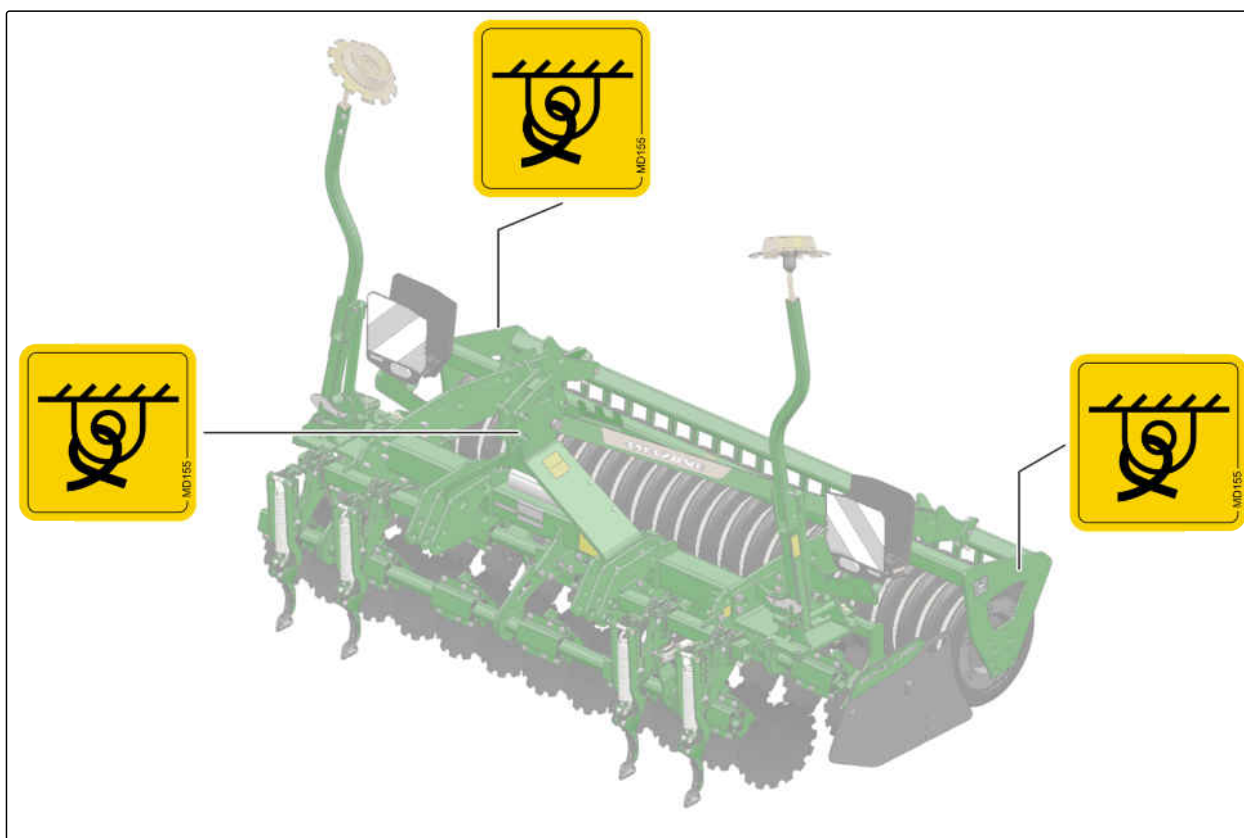
- ▶ リフト固定具は、必ずマークされている固定位置に取り付けてください。
- ▶ 固定具に必要な耐荷重能力を決定するために、次の表のデータに注意してください。

固定具ごとの必要耐荷重	2000 kg
-------------	---------

1. リフト固定具を、所定の固定箇所に固定します。
2. 機械をゆっくり上昇させます。

10.2 機械をラッシング

CMS-T-00006694-A.1



CMS-I-00004745

機械は、ラッシング用具を固定するための、ラッシングポイントを3つ備えています。



警告

不適切に取り付けられたラッシング用具による事故の危険

マークされていないラッシングポイントにラッシング用具を取り付けると、ラッシング時に機械が損傷したり、安全性が損なわれる恐れがあります。

- ▶ ラッシング用具は、必ずマークされているラッシングポイントに取り付けてください。

1. 機械を運搬車両に乗せます。
2. マークされているラッシングポイントに、ラッシング用具を取り付けます。
3. 荷物固定の国内規制に従って、機械をラッシングします。

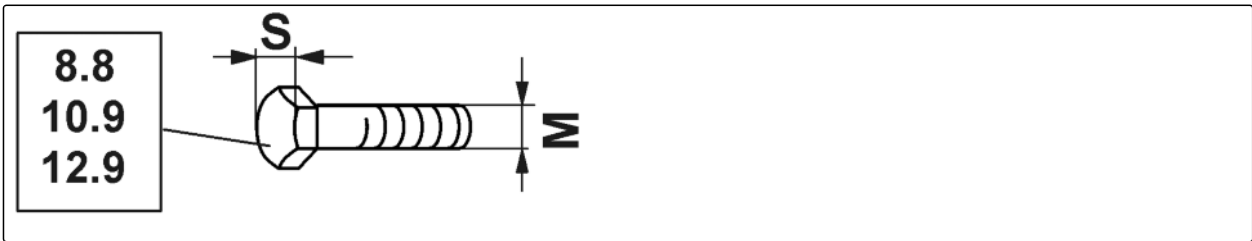
付録

11

CMS-T-00001468-C.1

11.1 ねじの締め付けトルク

CMS-T-00000373-B.1



CMS-I-000260

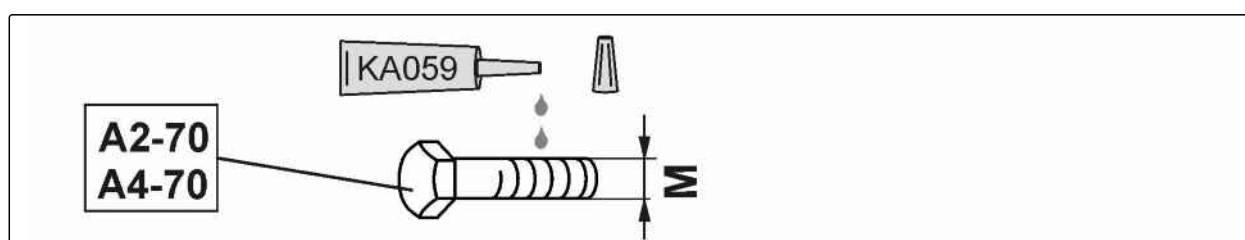


注記

他に指示がない場合、表に記載されたねじの締め付けモーメントが適用されます。

M	S	Nm		
		8.8	10.9	12.9
M8	13	25	35	41
M8x1		27	38	41
M10	16(17)	49	69	83
M10x1		52	73	88
M12	18(19)	86	120	145
M12x1.5		90	125	150
M14	22	135	190	230
M 14x1.5		150	210	250
M16	24	210	300	355
M16x1.5		225	315	380
M18	27	290	405	485
M18x1.5		325	460	550
M20	30	410	580	690
M20x1.5		460	640	770

M	S	Nm		
		8.8	10.9	12.9
M22	32	550	780	930
M22x1.5		610	860	1050
M24	36	710	1000	1200
M24x2		780	1100	1300
M27	41	1050	1500	1800
M27x2		1150	1600	1950
M30	46	1450	2000	2400
M30x2		1600	2250	2700



CMS-I-00000065

M	M4	M5	M6	M8	M10	M12	M14	M16	M18	M20	M22	M24
Nm	2.4	4.9	8.4	20.4	40.7	70.5	112	174	242	342	470	589

11.2 関連文書

CMS-T-00001469-A.1

- トラクターの取扱説明書
- Cataya 3000 Special（スペシャル）/Super（スーパー）の取扱説明書
- Centaya 3000 Super（スーパー）の取扱説明書
- GreenDrill（グリーンドリル）200-E の取扱説明書

索引

12

12.1 用語集

CMS-T-00000513-B.1

ト

トラクター

本取扱説明書では、他の農作業用トラクターについても一貫してトラクターと呼びます。トラクターには、機械を取り付けるか、牽引します。

作

作業物質

作業物質は運転準備を整えるために必要です。作業物質には、潤滑オイルや潤滑グリース、あるいは洗浄剤などの、洗剤や潤滑剤が含まれます。

機

機械

取り付けられた機械はトラクターの付属品です。しかし本取扱説明書においては、取り付けられた機械は一貫して機械と呼びます。

12.2 インデックス

3		タイヤ跡消しの使用準備	
3 点式取付用フレームの延長部		タイヤ跡消しコールタの交換	54
取り付け	44	タイヤ跡消しのトレッド幅を設定	54
		作業深度の設定	53
3 点式取付用フレーム		タイヤ跡消しをパーキング位置にセット	59
延長部を取り付け	44		
連結	44	ツ	
連結解除	60	ツール	31
3 点取付		デ	
連結	44	ディスク	
ね		交換	64
ねじの締め付けトルク	74	ト	
カ		トラクターの性能特性	37
カテゴリー 2 用ボールスリーブの取り付け	42	トラクター特性を計算	39
カテゴリー 3 用ボールスリーブの取り付け	43	トラックマーカのロック	
ク		製品の説明	26
クイックカップリングシステム クイックリン		トラックマーカの使用準備	
ク	35, 37	トラックマーカの長さを決定	52
クイックリンク		トラックマーカの長さを設定する	52
クイックカップリングシステム クイックリ		トラックマーカを展開	51
nkを参照	35	トラックマーカ強度の設定	52
サ		ド	
サイドガイドプレート 作業深度		ドキュメント	31
設定する	50	メ	
サイドガイドプレート		メンテナンス	
作業深度の設定	50	タイヤ跡消しコールタの点検	65
使用準備	50	ディスクキャリアを取り外す	64
製品の説明	32	ディスクを交換	64
道路走行の準備	56	ローラーの点検	66
ス		下側リンクピンの点検	63
スクレーパー		上側リンクピンの点検	63
調整	55	油圧ホースラインの点検	63
スレッドパック	31	ロ	
タ		ローラー	
タイヤ跡消しコールタ		スクレーパーを調整	55
点検する	65	製品の説明	32
		上	
		上側リンクピンの点検	63

下		作業速度	37
		潤滑剤	38
下側リンクピンの点検	63	寸法	36
中		整地用ツール	36
中空ディスクの作業深度		接続カテゴリ	37
個別に手動で設定	49	走行可能な斜面勾配	38
手動で拡大	47	騒音発生データ	38
手動で縮小	48	接	
手動設定	47	接続カテゴリ	37
油圧で設定	48	故	
中空ディスク		故障を取り除く	69
作業深度の手動設定	47	整	
作業深度は個別に手動設定	49	整地用ツール	
作業深度を手動で減らす	48	サイドガイドプレート	32
作業深度を手動で増やす	47	ローラー	32
説明	31	中空ディスク	31
油圧による作業深度設定	48	枕	
住		枕地	
住所		枕地で方向転換	58
技術編集部	4	機	
作		機械の使用準備	
作業深度の設定	47	タイヤ跡消しの使用準備	53
作業速度	37	トラックマーカースの使用準備	51
使		土壌ガイドブラケットの設定	56
使用目的	23	機械の修理	
保		機械の潤滑	67
保護装置	26	機械の潤滑	67
修		機械を置く	
修理作業	62	タイヤ跡消しをパーキング位置にセット	59
土		機械	
土壌ガイドブラケットの設定	56	ラッシング	72
寸		概要	24
寸法	36	使用	58
技		使用する	58
技術データ		使用準備	57
クイックカップリングシステム クイックリ		修理	62
ンク	37	準備	39, 39
トラクターの性能特性	37	上昇	71
		積載と荷降ろし	71
		置く	59
		道路走行の準備	56
		枕地で方向転換	58

油	説明	28
油圧ホースライン	走	
点検する		
連結	走行可能な斜面勾配	38
連結解除	連	
油圧系統	連絡先	
連結	技術編集部	4
清	道	
清掃	道路走行	
潤	準備	56
潤滑剤	道路走行用に機械を準備	
	道路走行用にトラックマーカを準備	57
照	電	
照明と識別	電圧供給	
後	連結	46
前	連結解除	61
積	騒	
積載	騒音発生データ	38
積載重量		
計算		
組		
組み合わせのオプション		
荷		
荷降ろし		
製		
製品の説明		
サイドガイドプレート		32
トラックマーカのロック		26
ローラー		32
後方の照明と識別		34
前方の照明と識別		35
調		
調整ツール		
製品の説明		34
警		
警告マーク		
位置		27
構成		27



AMAZONE

AMAZONEN-WERKE

H. DREYER SE & Co. KG

Postfach 51

49202 Hasbergen-Gaste

Germany

+49 (0) 5405 501-0

amazone@amazone.de

www.amazone.de